

科目名	NPO論		
科目名（英語）	NPO (Non-Profit Organization) Studies		
担当教員	佐野 麻由子		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、人間社会学部 社会福祉学科、高等学校教諭一種免許（公民）、中学校教諭一種免許（社会）		
標準履修年次	3～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

営利組織（企業）、政府組織との比較を通して非営利かつ非政府の立場で公共性の高い活動を行うNPOの歴史的展開や活動の特徴を学び、三者の協働の可能性と課題について考える。授業では、文献の他に、新聞や映像資料を用いて具体的な活動例を把握する。受講生には討論や対話、発表等への積極的な参加を求める。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

NPO、市民社会の動向に関心があることが履修条件である。
「公共性の社会学」で学んだ知識を復習しておくとい良いでしょう。

関連資格

高等学校教諭一種免許状（公民）、中学校教諭一種免許状（社会）

テキスト

授業内で毎回レジュメを配布します。

参考図書・教材等

Mayuko SANO, 2012, Problem of Resource Mobilization : NGOs in Nepal 科学研究費補助金スタート支援報告書（研究代表者：佐野麻由子）
原田晃樹・藤井敦史・松井 真理子, 2010, 『NPO再構築への道』勁草書房

実務経験を生かした授業

NPO関係者を特別講師として招聘し、講師と受講者との対話を通して現場の状況についても学ぶ。

授業中の撮影

有

学習相談・助言体制

コメントカードで受け付ける。また適宜、個別の質問・相談等にも応じる。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	NPO、市民社会についての幅広い知識を身につけている。
-------	-----------------------------

思考・判断・表現

(DP3)	市民組織（NPO/NGO）の組織形態、資源動員形態に影響を与える要因について、学んだ理論に依拠して説明できる。NPOの資源動員、官民市民の連携における課題の背景を論理的に説明し、それへの対応を提示できる。
-------	--

主体性・多様性・協働性

(DP4)	日本だけでなく、世界のNPOの活動、市民社会のあり方に深い関心を持ち主体的に学習できる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

（１）市民組織（NPO）、市民社会についての幅広い知識を身につけ、NPOの組織形態、資源動員形態に影響を与える要因について理論に依拠して説明できること、（２）NPOの資源動員、官民市民の連携における課題解決策を提示できること、（３）世界のNPOの活動、市民社会のあり方に深い関心を持ち主体的に学習できること、（４）NPO、市民社会についての先行研究や各種の資料を適切に収集できること、を目標とする。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

NPOや市民社会論、社会運動論に関連した基礎概念の意味が理解でき、それを用いて現在起きている具体的な事象について説明できる。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

授業内容を越えた自主的な学修が認められる。

A:80～89 履修目標を達成している。

授業内容をほぼすべて理解している。

B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

授業内容を70%理解している。

C:60～69 到達目標を達成している。

到達目標に達していることが認められる。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

到達目標に達していることが認められない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
期末レポート	40	知識・技能(DP1)：20，思考・判断・表現(DP3)：20
授業内レポート・小テスト	40	知識・技能(DP1)：20，思考・判断・表現(DP3)：15，主体性・多様性・協働性(DP4)：5
授業外レポート・宿題	20	知識・技能(DP1)：10，思考・判断・表現(DP3)：10

・授業計画、アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

3

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	ガイダンス：NPO論で学ぶこと
	授業方法/進め方	講義
2	授業内容(担当教員)	NPOとは？NPOの定義
	授業方法/進め方	質疑応答、講義
	事前・事後学習	レジュメの復習
3	授業内容(担当教員)	NPOの歴史的展開：世界で一番古いINPO
	授業方法/進め方	質疑応答、講義
	事前・事後学習	世界で一番古いINPOについて事例を調べてくる レジュメの復習
4	授業内容(担当教員)	NPOと公共性、市民との関係は？：対抗的相補性
	授業方法/進め方	質疑応答、講義
	事前・事後学習	予習として出された課題をこなす レジュメの復習
5	授業内容(担当教員)	NPO/NGOの現状を知る(世界編)：NPOが多い地域と少ない地域の違いは？ 映像資料の視聴
	授業方法/進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	予習として出された課題をこなす レジュメの復習
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
6	授業内容(担当教員)	NPO/NGOの国際比較からみえるもの：NPO/NGOの組織形態を決める要因
	授業方法/進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	予習として出された課題をこなす レジュメの復習

7	授業内容（担当教員）	事例：巨大NPO Bangladesh のBRAC
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	予習として出された課題をこなす レジュメの復習
8	授業内容（担当教員）	NPO/NGOの現状を知る（日本編）：NPOが多い地域と少ない地域の違いは？
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	予習として出された課題をこなす レジュメの復習
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
9	授業内容（担当教員）	地域間比較からみえるもの：日本のNPO活動（役割）、経営状況、人材
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	・自分の地域の人口あたりNPOの数、活動分野についての資料収集 ・レジュメの復習
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
10	授業内容（担当教員）	新しいINPOのかたち：社会的事業
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	・レポートのテーマの検討 ・レジュメの復習
11	授業内容（担当教員）	新しいINPOのかたち：社会的企業
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	・予習として出された課題をこなす ・レジュメの復習
12	授業内容（担当教員）	新しいINPOのかたち：CSR、BOPビジネス
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	・予習として出された課題をこなす ・レジュメの復習
13	授業内容（担当教員）	新しいINPOのかたち：今日の官、民、市民の協働
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	・予習として出された課題をこなす ・レジュメの復習
14	授業内容（担当教員）	ゲスト講師による講話：討論・報告のまとめ方・発信
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	・実務者に聞いてみたいことを列挙する ・実務者の話から学んだことを小レポートにまとめる
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
15	授業内容（担当教員）	まとめ：プレゼンテーション
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	・これまでに読んだテキスト、参考文献、レジュメの振り返り
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

科目名	キャリア論		
科目名（英語）	Career Education		
担当教員	井上 奈美子		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、人間社会学部 社会福祉学科、人間社会学部 人間形成学科、キャリアマネジメント・プログラム、高等学校教諭一種免許（公民）、高等学校教諭一種免許（情報）、中学校教諭一種免許（社会）		
標準履修年次	3～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

教員志望者対象の授業。教員志望者にとって、キャリア教育と進路指導は必須要件になっている。しかし、社会人経験がない学生の場合は、戸惑うことが多い。本講義は、その不安を解消することを目指す。

進路指導は、生徒が将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長することを目指す過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す活動である。それを包含するキャリア教育は、教育機関で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。

本講義では、まずキャリア教育の歴史的背景と現代社会における意義の理解を深める。そのうえで個人が自己実現を果たす進路選択についてキャリアに関する様々な理論をもとに議論する。教員採用試験に向けた対策の一環として、キャリア教育の模擬授業の指導も行う。これによって、キャリア教育に関する有意義な知識を獲得することができ、実践力も身に着く。なお本講義では履修生主体のアクティブラーニングを行うことで、高度で難しい文部科学省などの資料もわかりやすく理解することができる。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

特になし

関連資格

必要な資格はありませんが、井上の他の講義もあわせて履修していただくとより学びが深まるかとおもいます。教員を目指す学生向けの授業内容です。一般企業を希望する学生は、組織マネジメントの方を履修ください。

テキスト

生協にて教科書を購入することになります。金額などの確認は、生協で科目名を伝えて行うことができます。

参考図書・教材等

オリエンテーションで説明します

実務経験を生かした授業

長年、大学の就職課で就職（キャリア）進路支援を行った実務経験者が指導する。担当教員（井上）は、民間企業や公務員、教員の採用試験、特に面接内容について詳しい。キャリア教育の教員に求められる知識と資質、さらに民間や公的機関の採用試験の動向について解説する。

授業中の撮影

大学案内撮影年1回程度（撮影辞退可能）

学習相談・助言体制

コメントカードで受け付ける。また適宜、個別の質問・相談等にも応じる。授業中の質問、発言は成績評価の加点となります。Teams、ZOOM、イーラーニングを積極的に活用することで、学生の学びの機会を充実させます。履修を迷った場合も、履修前に気軽に相談ください。メールでも結構です。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2)	進路選択、キャリア教育に関する専門知識を獲得し実践することができる。
-------	------------------------------------

思考・判断・表現

(DP3)	社会的・職業的自立に向けて基盤となる資質・能力について自らの思考を形成し、キャリア教育の視点を提示することができる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

社会的・職業的自立に向けて基盤となる資質・能力について自らの思考を形成し、キャリア教育の視点を提示することができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

進路指導、キャリア教育の教育意義を理解し、さらに現代の子供たちの進路選択や悩みを理解することができる。現代社会で若者が抱える就職活動の悩みや新卒労働市場の動向などについて理解する。キャリア教育の理論を理解し、自身の進路選択や人生に活かすことができる。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

A:80～89 履修目標を達成している。

B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C:60～69 到達目標を達成している。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

5回以上の欠席は不可となります。ご注意ください。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業内レポート・小テスト	40	知識・技能(DP2)：20，思考・判断・表現(DP3)：20
発表	60	知識・技能(DP2)：30，思考・判断・表現(DP3)：30

・授業計画、 . アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

ディスカッションやプレゼン

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	オリエンテーション(授業内容と成績評価の説明、テキスト資料確認)
	授業方法/進め方	講義、履修目的の明確化、学生同士で学習目標を共有する。
2	授業内容(担当教員)	キャリア教育の歴史、職業指導から進路指導そしてキャリア教育へ
	事前・事後学習	毎回、講義の復習として自習を行う。配布資料は各自でダウンロード、印刷を行うこと
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/イベント/グループワーク
3 [メディア]	授業内容(担当教員)	教育振興基本計画、中央教育審議会答申の職業教育
4 [メディア]	授業内容(担当教員)	中高におけるキャリア教育推進施策の展開
5 [メディア]	授業内容(担当教員)	中高におけるキャリア発達支援、進路指導における個別指導
6 [メディア]	授業内容(担当教員)	中高における主体的進路選択、進路指導における集団指導
7 [メディア]	授業内容(担当教員)	キャリア教育の意義と原理、自己実現過程
8	授業内容(担当教員)	キャリア教育における地域・産業界との連携、インターンシップ(職場体験)
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/イベント/グループワーク
9	授業内容(担当教員)	主体的進路選択と意思決定(文部科学省提言)
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/イベント/グループワーク

10	授業内容（担当教員）	キャリア自己効力感 - 社会認知的キャリア理論
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
11	授業内容（担当教員）	現実的探索・試行と社会的移行準備
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
12	授業内容（担当教員）	職業観・勤労観の確立
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
13	授業内容（担当教員）	キャリアと協働、キャリア自己概念
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
14	授業内容（担当教員）	生涯にわたる主体的キャリア形成
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
15	授業内容（担当教員）	学習の振り返り、プレゼンテーション
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
備考	学生さんのニーズや感染症の状況などを鑑み、学生さんと相談して遠隔授業を取り入れることもある。 。	

科目名	コミュニティ論		
科目名(英語)	Community Theory		
担当教員	黒田 伸太郎		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、人間社会学部 社会福祉学科、高等学校教諭一種免許(公民)、中学校教諭一種免許(社会)		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

コミュニティという概念は極めて多義的であるが、本講義では、「地域コミュニティ」を中心に学ぶ。地域社会では様々なアクター(住民、行政、企業、NPOなど)が協働、連携し、当該地域の課題解決を図る基盤としての地域コミュニティを重視している。この時、地域コミュニティはどのような働きをし、またそこにはどのような意義があるのかを理解することが重要であり、本講義ではいくつかの理論を学んでいく。その上で、人口減少や地域経済の衰退などが取りざたされる地方都市の今後のあるべき地域コミュニティ像について、様々な事例を踏まえて議論を行いながら、理解を深めていく。

履修条件/授業内容を理解するために必要な知識・技能等
特になし。

テキスト

適宜プリント(レジュメ)を配布する。

参考図書・教材等

参考文献 伊豫谷登士翁・齋藤純一・吉原直樹「コミュニティを再考する」(平凡社)2013、広井良典「コミュニティを問い直す」(ちくま新書)2009

実務経験を生かした授業

自治体勤務経験を踏まえ、行政、住民の両方の視点でコミュニティの見方について幅広く話題を提供する。

学習相談・助言体制

講義に関する質問・相談は講義終了後に受け付ける。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	市民として必要な知識として「コミュニティ」の概念が理解できる。
-------	---------------------------------

思考・判断・表現

(DP3)	「コミュニティ」とは何か、説明する文章が書け、また口頭で説明できる。
-------	------------------------------------

主体性・多様性・協働性

(DP4)	地域の諸問題について、行政や住民の果たす役割が多面的に存在することが理解できる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

「コミュニティ」の理論や歴史、政策について正確に理解した上で自らの考えを分かりやすくまとめることができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

「コミュニティ」とは何か、説明する文章が書け、また口頭で説明できる。

成績評価の基準

S:90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A:80～89	履修目標を達成している。
B:70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C:60～69	到達目標を達成している。

不可: ~59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	50	知識・技能(DP1)：20，思考・判断・表現(DP3)：20，主体性・多様性・協働性(DP4)：10
授業内レポート・小テスト	30	知識・技能(DP1)：20，思考・判断・表現(DP3)：10
発表	20	知識・技能(DP1)：10，主体性・多様性・協働性(DP4)：10

・授業計画、アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	イントロダクション
	授業方法／進め方	講義形式。「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。適宜映像資料の視聴やグループ・ディスカッションの時間を設ける。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する
2	授業内容（担当教員）	コミュニティとは何か
	授業方法／進め方	講義形式。「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。適宜映像資料の視聴やグループ・ディスカッションの時間を設ける。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する
3	授業内容（担当教員）	地域コミュニティとは何か
	授業方法／進め方	講義形式。「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。適宜映像資料の視聴やグループ・ディスカッションの時間を設ける。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する
4	授業内容（担当教員）	地域コミュニティを取り巻く現状
	授業方法／進め方	講義形式。「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。適宜映像資料の視聴やグループ・ディスカッションの時間を設ける。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する
5	授業内容（担当教員）	地域コミュニティを取り巻く課題
	授業方法／進め方	講義形式。「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。適宜映像資料の視聴やグループ・ディスカッションの時間を設ける。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する
6	授業内容（担当教員）	ソーシャルキャピタルと地域コミュニティ
	授業方法／進め方	講義形式。「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。適宜映像資料の視聴やグループ・ディスカッションの時間を設ける。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する
7	授業内容（担当教員）	協働と地域コミュニティ
	授業方法／進め方	講義形式。「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。適宜映像資料の視聴やグループ・ディスカッションの時間を設ける。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する

8	授業内容（担当教員）	災害と地域コミュニティ
	授業方法 / 進め方	講義形式。「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。適宜映像資料の視聴やグループ・ディスカッションの時間を設ける。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する
9	授業内容（担当教員）	情報化と新しいコミュニティ
	授業方法 / 進め方	講義形式。「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。適宜映像資料の視聴やグループ・ディスカッションの時間を設ける。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する
10	授業内容（担当教員）	コミュニティ政策
	授業方法 / 進め方	講義形式。「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。適宜映像資料の視聴やグループ・ディスカッションの時間を設ける。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する
11	授業内容（担当教員）	コミュニティ政策
	授業方法 / 進め方	講義形式。「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。適宜映像資料の視聴やグループ・ディスカッションの時間を設ける。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する
12	授業内容（担当教員）	地方自治体と地域コミュニティとの関わり
	授業方法 / 進め方	講義形式。「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。適宜映像資料の視聴やグループ・ディスカッションの時間を設ける。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する
13	授業内容（担当教員）	コミュニティを再考する
	授業方法 / 進め方	講義形式。「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。適宜映像資料の視聴やグループ・ディスカッションの時間を設ける。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する
14	授業内容（担当教員）	コミュニティを問い直す
	授業方法 / 進め方	講義形式。「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。適宜映像資料の視聴やグループ・ディスカッションの時間を設ける。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する
15	授業内容（担当教員）	まとめ
	授業方法 / 進め方	講義形式。「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード（黒板）などに基づいて講義する。適宜映像資料の視聴やグループ・ディスカッションの時間を設ける。
	事前・事後学習	配布する事前・事後学習用の資料を熟読する

科目名	国際協力論		
科目名（英語）	International Cooperation Studies		
担当教員	佐野 麻由子		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、高等学校教諭一種免許（公民）、中学校教諭一種免許（社会）		
標準履修年次	1～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

国家間の格差、国内の格差が生じるメカニズムについての社会科学のアプローチを学んだ上で、国際協力に関わる官、民、市民の取り組み、今日の国際協力の可能性と課題を理解する。講義内では、国際協力に携わる実務者（JICAやNGO等）を招聘し、受講生との対話を通して開発課題への対応策を検討する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

国際協力、グローバル化、国際社会の動向に関心があること。

関連資格

高等学校教諭一種免許（公民）、中学校教諭一種免許（社会）

テキスト

佐藤寛・浜本篤史・佐野麻由子・滝村卓司編 『開発社会学を学ぶための60冊：援助と発展を根本から考えよう』明石書店、2015、2800+税

参考図書・教材等

佐野麻由子・田代英美「教育実践報告：公共社会学科におけるアクティブ・ラーニングの実践2016」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻第2号、2017。

中学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省）

実務経験を生かした授業

国際協力に携わる実務者（JICAやNGO等）を招聘し、講師と受講者との対話を通して現場の状況についても学ぶ。

授業中の撮影

有

学習相談・助言体制

コメントカードで受け付ける。また適宜、個別の質問・相談等にも応じる。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	開発社会学、開発経済学を中心とする社会科学の知識を身につけている。
-------	-----------------------------------

思考・判断・表現

(DP3)	開発の課題を論理的に説明し、対応策（よりよい開発援助プロジェクト）を提案できる。
-------	--

主体性・多様性・協働性

(DP4)	先進国、途上国双方の問題に深い関心を持ち、両者の共通項を見出しながら主体的に学習できる。 開発課題を解決する能力を高め、社会にはたらきかけることができる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

先進国、途上国双方の問題に深い関心を持ち、両者の共通項を見出しながら、開発社会学、開発経済学の先行研究に依拠して、各種問題に関わるマクロデータ、国際協力に関する各種資料を適切に収集し、開発課題への対応策を提案できる能力を身につけることを目標とする。

・教授した専門用語や理論枠組みを用いて論述（報告）する時間を設け、論理的思考力、判断力を高める。

・国際協力に関する基礎的知識の修得（授業計画の a ）、及び、本科目指導の基礎的スキル 指導計画、教科の構成、教材作成・開発、指導方法（授業計画の b ）を修得する。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

国際協力に関連した基礎概念の意味が理解でき、それを用いて現在起きている具体的な事象について説明できる。

成績評価の基準

S: 90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

授業内容を越えた自主的な学修が認められる。

A: 80～89 履修目標を達成している。

授業内容をほぼすべて理解している。

B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

授業内容を70%理解している。

C: 60～69 到達目標を達成している。

到達目標に達していることが認められる。

不可: ~59 到達目標を達成できていない。

到達目標を達成していない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連する D P
期末レポート	60	知識・技能(DP1)：20，思考・判断・表現(DP3)：20，主体性・多様性・協働性(DP4)：20
授業内レポート・小テスト	40	知識・技能(DP1)：15，思考・判断・表現(DP3)：15，主体性・多様性・協働性(DP4)：10
その他		知識・技能(DP1)，思考・判断・表現(DP3)，主体性・多様性・協働性(DP4)

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

3

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	ガイダンス、この授業のねらい、複合科目の意義、本授業の内容と構成 a 発展とは何か b 実務者との対話のコーディネート、実務者との対話の指導方法としての意義
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト文献1、2、3を読み、「発展」、「進化」についての考え方について予習をする。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デバート / グループワーク

2	授業内容（担当教員）	a 国際協力とは誰が何のために何をすることなのか？
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・レジュメの復習 ・テキスト文献4、11を読み「発展」と「開発」の違いについて復習する。 ・「開発」と「援助」「国際協力」との関係について復習する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/イベント/グループワーク
3	授業内容（担当教員）	a 国際協力で対峙する課題：シャンパンガラスのような世界 b 国際協力に関する社会科・公民科のカリキュラム構成と教材作成・開発
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・人間開発報告書を用いて授業内で作成した世界地図に自分なりに情報を加える。 ・配布した年表に授業で学んだ情報を加え、各自で開発目標の変遷と世界的な出来事をまとめた年表を作成する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/イベント/グループワーク
4	授業内容（担当教員）	a 途上国はなぜ途上国なのか？不公正な貿易制度
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・文献2の社会進化論に依拠した際の貧困国になった理由、文献8、9の従属論、世界システム論に依拠した際の貧困国になった理由を予習する。 ・テキスト文献8、9を読み、途上国を生み出すマクロな構造についての議論を復習する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/イベント/グループワーク
5	授業内容（担当教員）	a 貧しい者・差別される者が生まれるのはなぜか 映像資料の視聴
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	・文献42『グローバル化と社会的排除』を読み、社会的排除がうまれるメカニズムを予習する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/イベント/グループワーク
6	授業内容（担当教員）	a 開発援助の正負の影響は何か 映像資料をもとにしたグループ・ディスカッション
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答、事例検討
	事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト文献5、24、25を読み、どのような条件下では開発援助は負の影響を及ぼすのかを予習する。 ・レジュメを復習する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/イベント/グループワーク

7	授業内容（担当教員）	a よりよい国際協力を実現させるために（1）：持続可能な開発
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	・文献23『地域開発の構想と現実』を読んで、福武らは「地域開発」をどのようなものとして位置づけ、「地域開発」のどのような問題点を指摘しているのかを予習する。 ・レジュメを復習する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
8	授業内容（担当教員）	a よりよい国際協力を実現させるために（2）：参加型開発
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	テキストの文献14『開発は誰のために』、文献55『変容する参加型開発』を読んで参加型開発とはどのような考え方が、なぜそのような考え方が登場したのかを簡単に提示したうえで、日本の地域活動や地方自治における“参加型開発”の例について予習する。 ・レジュメを復習する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
9	授業内容（担当教員）	a 見えない資源の活用：社会関係資本の重要性
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	テキスト第8章を読み目に見えない資源について予習する。 ・レジュメを復習する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
10	授業内容（担当教員）	a 先進国・途上国を元気にするフェアトレード・地産地消
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	・レポートのテーマを検討する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
11	授業内容（担当教員）	a 貧困層、企業のWinWinの関係？：BOPビジネスの挑戦 b 国際協力に関するさまざまな教材とその活用方法
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	・テキスト文献39を読みBOPビジネスについて予習する。 ・レジュメを復習する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
12	授業内容（担当教員）	a 地域を元気にする国際協力 b 系統学習と課題解決学習：その特徴と学習効果
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	・レジュメを復習する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

13	授業内容（担当教員）	a よりよい国際協力を考える～実務者との対話 (1)：報告のまとめ方・発信の仕方 b 教育方法としてのアクティブ・ラーニングの実践と指導計画
	授業方法 / 進め方	質疑応答、講義、議論
	事前・事後学習	・実務者に聞いてみたいことを列挙する ・実務者への聞き取りをまとめる。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デベート / グループワーク
14	授業内容（担当教員）	a よりよい国際協力を考える～実務者との対話 (2)：報告のまとめ方・対応策の検討 b アクティブ・ラーニングの活用方法と留意点 まとめ
	授業方法 / 進め方	質疑応答、講義、議論
	事前・事後学習	・実務者に聞いてみたいことを列挙する ・実務者への聞き取りをまとめる。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デベート / グループワーク
15	授業内容（担当教員）	a 国際協力の可能性と課題に関するプレゼンテーション b 国際協力に関する教材と指導法に関するプレゼンテーション
	授業方法 / 進め方	質疑応答、講義、議論
	事前・事後学習	・これまでに読んだテキスト、参考文献、レジユメの振り返りを行う。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デベート / グループワーク

科目名	国際政治学		
科目名（英語）	International Politics		
担当教員	岡本 雅享		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、高等学校教諭一種免許（公民）、中学校教諭一種免許（社会）		
標準履修年次	1～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

国際政治は国家と国家の駆け引きのように思われがちだが、この講義では一般の、特に世界システムの中で弱い立場に置かれた人々の視点から国際政治をみていく。定期的にBBC World Newsなどを見て、進行中の国際問題に関心を持ち、日本のメディアの報道との違い等から、多角的な視点を培う。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等
講義中問いかけたら答え、自分の意見が表明できること。

テキスト

長有紀枝『入門人間の安全保障』増補版、中公新書、2021年

参考図書・教材等

各回の内容に合わせて配布

実務経験を生かした授業

国連（ECOSOC）NGOのスタッフなどを務めた経験から、国連会議への参加経験などを含めながら、グローバルガバナンスについて解説する

学習相談・助言体制

質問票の配付と回答（次回講義時）他。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	社会学を中心とする社会科学の専門知識をもとに、社会的事象の歴史的背景や多元性、異なる文化や価値観を理解できる。
-------	---

思考・判断・表現

(DP3)	人間・社会の諸問題について、自らの考えを適切に説明することができる。
-------	------------------------------------

主体性・多様性・協働性

(DP4)	異なる文化や価値観を理解し、これらを尊重しながら他者と共に生きていく姿勢を身につけている。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

現代国際政治に関する基礎的な枠組みや用語を理解した上で、主体的に学習し、自らの考えを適切に他者に説明することができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

現代国際政治を理解する上での基礎的な枠組みや用語の意味が理解できる。

成績評価の基準

S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A: 80～89	履修目標を達成している。
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60～69	到達目標を達成している。

不可: ~59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
各回講義時の意見や考察	45	知識・技能(DP1), 思考・判断・表現(DP3), 主体性・多様性・協働性(DP4)
学期内レポート課題	35	知識・技能(DP1), 思考・判断・表現(DP3), 主体性・多様性・協働性(DP4)
期末レポート	20	知識・技能(DP1), 思考・判断・表現(DP3), 主体性・多様性・協働性(DP4)
備考	期末レポートを提出しない場合、成績は「不可」になる。講義中 講義に無関係な私語を続ける、ゲームをしたり漫画を読んでいる、机に伏して寝ている受講生がいた場合は、当該学生につき20%を限度として減点する。	

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	平和学、人間の安全保障論としての国際政治学(講義の概要)
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	配付資料を読む
2	授業内容(担当教員)	構造的暴力と南北問題
	授業方法/進め方	講義 第1回レポート課題
	事前・事後学習	テキスト第1章を読む
3	授業内容(担当教員)	構造的暴力の実態と平和への道
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第2章を読む
4	授業内容(担当教員)	グローバルガバナンス
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第3章を読む
5	授業内容(担当教員)	国際平和と人権 国連の活動とNGO
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第4章を読む
6	授業内容(担当教員)	国際政治と難民問題
	授業方法/進め方	講義 第2回レポート課題
	事前・事後学習	配付資料を読む
7	授業内容(担当教員)	UNHCRの創設と活動の拡大
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第5章を読む
8	授業内容(担当教員)	難民問題をめぐる欧日政治比較
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第6章を読む
9	授業内容(担当教員)	パレスチナ イスラエル問題とアメリカ
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第7章を読む
10	授業内容(担当教員)	冷戦後の中東紛争とアメリカ 9.11「対テロ戦争」まで
	授業方法/進め方	講義 第3回レポート課題
	事前・事後学習	テキスト第8章を読む
11	授業内容(担当教員)	冷戦後の中東紛争とアメリカ アラブの春、ISの台頭以降
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	テキスト第9章を読む

12	授業内容（担当教員）	ロシアによるウクライナ侵攻の背景 ソ連崩壊からNATOの東方拡大
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	配付資料を読む
13	授業内容（担当教員）	欧米主導のWW 後国際経済体制 通貨と政治
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	配付資料を読む
14	授業内容（担当教員）	自由貿易のさらなる拡張 & 経済のグローバリズムに挑む市民社会
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	配付資料を読む
15	授業内容（担当教員）	テロを生み出す貧富の格差と人間の安全保障
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	配付資料を読む

科目名	社会調査実習		
科目名（英語）	Practical Training in Social Research		
担当教員	佐野 麻由子、堤 圭史郎、美谷 薫		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許（公民）、中学校教諭一種免許（社会）、社会調査士資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

科目情報

授業概要

社会調査実習を通して、調査の企画から報告書の作成まで社会調査の全過程を、体験的・学生主体的な形で学習する。社会調査実習では、社会調査の企画（仮説の立案、対象者選出など）、サンプリング、プリテスト、実査までの、社会調査に必須の過程を実際のプロジェクトを通して体験し、社会調査士として必要な実践的知識やスキルを修得する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

1年次までに「社会調査法」「データ分析の基礎」を履修していること。

2年次に「社会調査の設計」「社会統計学I・II」を必ず履修すること。

テキスト

調査テーマに関連したテキストを、4月の説明会において担当者から説明する。

参考図書・教材等

Takuo Utagawa ed 2013 『Social Research and Evaluation of Poverty Reduction Project』ハーベスト社。調査テーマに関連した参考図書・教材等を、随時担当者から説明する。

実務経験を生かした授業

行政・NPO等からの委託調査及び学術調査研究の経験がある教員が、実際に学生とともに社会調査プロジェクトを企画運営し、報告書作成に至るまでの社会調査の一連の過程について実践的に指導する。

授業中の撮影

無

学習相談・助言体制

適宜、個別の質問・相談等にも応じる。

DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	・社会調査の設計、実施に関わる専門知識を身につけている。
-------	------------------------------

思考・判断・表現

(DP3)	・社会的課題を公共性の観点から整理できる。 ・社会的課題が生じるメカニズムについて調査の知見に基づいて論理的に説明し、対応を提示できる。
-------	---

主体性・多様性・協働性

(DP4)	・自ら調査テーマを設定し、主体的に調査の設計、実施に携わることができる。 ・公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に発信することができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

(1) 社会調査の設計や実施に関わる専門知識を身につけ、社会的課題を公共性の観点から整理できること、(2) 自ら調査テーマを設定し、主体的に調査の設計、実施に携わることができること、(3) 社会的課題を取り扱う際に、社会科学的に的確に観察、調査、分析できること、(4) 公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に発信することができることを目標とする。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

社会調査の企画、サンプリング、プリテスト、実査、データ入力、集計・分析、報告書の作成の各過程をこなすことができる。

成績評価の基準

S: 90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

A: 80～89 履修目標を達成している。

B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C: 60～69 到達目標を達成している。

不可: ～59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連する D P
その他	100	知識・技能(DP1), 思考・判断・表現(DP3), 主体性・多様性・協働性(DP4)
備考	調査設計・調査内容: 30%、分析水準・報告書の内容: 40%、出席・参加度: 30%。	

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	オリエンテーション
	授業方法/進め方	テーマにより調査グループを編成 左の内容について概略を講義する
	事前・事後学習	・調査原案の作成 ・調査企画
2	授業内容(担当教員)	社会調査の意義、方法、スケジューリング、実施上の留意事項の確認
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
3	授業内容(担当教員)	調査企画(テーマの設定、調査対象/フィールドの検討)
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
	事前・事後学習	・調査企画・仮説の作成
4	授業内容(担当教員)	調査テーマに関する文献講読
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
5	授業内容(担当教員)	調査対象に関する文献やデータの収集
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
6	授業内容(担当教員)	調査テーマに関する既存研究成果の整理
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
7	授業内容(担当教員)	仮説の検討(仮説を構成する変数の検討)
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
8	授業内容(担当教員)	仮説導出
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う

9	授業内容（担当教員）	調査票作成（質問項目・質問文作成）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
10	授業内容（担当教員）	調査票作成（調査票の全体構成を検討）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	事前・事後学習	調査票作成
11	授業内容（担当教員）	調査票作成（ワーディングをチェック）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
12	授業内容（担当教員）	サンプリングの種類と方法の確認
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	事前・事後学習	対象者選定
13	授業内容（担当教員）	調査対象 / フィールドの現地調査
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
14	授業内容（担当教員）	調査対象 / フィールドの関係者からのヒアリング
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
15	授業内容（担当教員）	サンプリング実施（サンプリング作業とノウハウ）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
	事前・事後学習	サンプリング、実査
16	授業内容（担当教員）	サンプリング実施
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
17	授業内容（担当教員）	調査対象者の名簿入力
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
18	授業内容（担当教員）	調査実施プロセスの確認、プリテスト
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
19	授業内容（担当教員）	プリテストの実施
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
20	授業内容（担当教員）	プリテストの結果についての討論
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
21	授業内容（担当教員）	調査票の再検討
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
22	授業内容（担当教員）	調査票の確定、実査マニュアルの作成
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
23	授業内容（担当教員）	実査の準備（郵送用封筒等の準備）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
24	授業内容（担当教員）	実査の準備（調査票の封入と郵送）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う

25	授業内容（担当教員）	実査（問い合わせ対応）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
26	授業内容（担当教員）	実査（回収調査票のナンバリングとチェック）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
27	授業内容（担当教員）	実査（回収調査票のナンバリングとチェック）
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
28	授業内容（担当教員）	エディティング準備
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
29	授業内容（担当教員）	入力シートの作成
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
30	授業内容（担当教員）	実査までのプロセスに対するレポート作成
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
備考	各回の内容は調査を行うという授業の性格上、進行具合によって予定を変更する場合がある。	

科目名	社会調査実習		
科目名（英語）	Practical Training in Social Research		
担当教員	佐野 麻由子、堤 圭史郎、美谷 薫		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、データサイエンス・プログラム、高等学校教諭一種免許（公民）、中学校教諭一種免許（社会）、社会調査士資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

社会調査実習を通して、調査の企画から報告書の作成まで社会調査の全過程を、体験的・学生主体的な形で学習する。社会調査実習では、社会調査実習で得られたデータのエディティング、コーディング、入力作業、データセットの作成、集計・分析、報告書の作成という社会調査に必須の過程を体験し、社会調査士として必要な実践的知識やスキルを修得する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

- 1年次までに「社会調査法」「データ分析の基礎」を履修していること。
- 2年次に「社会調査の設計」「社会統計学Ⅰ・Ⅱ」を必ず履修すること。
- 社会調査実習Ⅰを履修・単位修得していること。

テキスト

調査テーマに関連したテキストを、4月の説明会において担当者から説明する。

参考図書・教材等

Takuo Utagawa ed 2013『Social Research and Evaluation of Poverty Reduction Project』ハーベスト社。調査テーマに関連した参考図書・教材等を、随時担当者から説明する。

実務経験を生かした授業

行政・NPO等からの委託調査及び学術調査研究の経験がある教員が、実際に学生とともに社会調査プロジェクトを企画運営し、報告書作成に至るまでの社会調査の一連の過程について実践的に指導する。

授業中の撮影

無

学習相談・助言体制

適宜、個別の質問・相談等にも応じる。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	・社会調査の設計、実施に関わる専門知識を身につけている。
-------	------------------------------

思考・判断・表現

(DP3)	・社会的課題を公共性の観点から整理できる。 ・社会的課題が生じるメカニズムについて調査の知見に基づいて論理的に説明し、対応を提示できる。
-------	---

主体性・多様性・協働性

(DP4)	・自ら調査テーマを設定し、主体的に調査の設計、実施に携わることができる。 ・公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に発信することができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

(1) 社会調査の設計や実施に関わる専門知識を身につけ、社会的課題を公共性の観点から整理できること、(2) 社会的課題を取り扱う際に、社会科学的に的確に観察、調査、分析できること、(3) 社会的課題が生じるメカニズムについて調査の知見に基づいて論理的に説明し、対応を提示できること、(4) 公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に発信することができることを目標とする。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

社会調査の企画、サンプリング、プリテスト、実査、データ入力、集計・分析、報告書の作成の各過程をこなすことができる。

成績評価の基準

S: 90 ~ 100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

A: 80 ~ 89 履修目標を達成している。

B: 70 ~ 79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C: 60 ~ 69 到達目標を達成している。

不可: ~ 59 到達目標を達成できていない。

成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
その他	100	知識・技能(DP1), 思考・判断・表現(DP3), 主体性・多様性・協働性(DP4)
備考	調査設計・調査内容: 30%、分析水準・報告書の内容: 40%、出席・参加度: 30%。	

授業計画、アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

実習

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	調査プロセス、分析方法、報告書執筆についての確認
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
2	授業内容(担当教員)	データエディティング
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
	事前・事後学習	データセット作成
3	授業内容(担当教員)	回収調査票の最終チェック
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
4	授業内容(担当教員)	コーディング表の作成、入力作業のノウハウ
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
5	授業内容(担当教員)	コーディング
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
6	授業内容(担当教員)	データ入力作業
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
7	授業内容(担当教員)	データ入力作業
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う
8	授業内容(担当教員)	データクリーニング
	授業方法/進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間(土日含む)を使う

9	授業内容 (担当教員)	データセット確認
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間 (土日含む) を使う
10	授業内容 (担当教員)	データの読み取りと集計・分析ソフトの使い方に関するディスカッション
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間 (土日含む) を使う
11	授業内容 (担当教員)	データ集計 (単純集計)
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間 (土日含む) を使う
12	授業内容 (担当教員)	データ分析 (単純集計結果の分析)
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間 (土日含む) を使う
	事前・事後学習	各種の分析手法によりデータ分析を行う
13	授業内容 (担当教員)	データ集計 (属性と他項目のクロス集計)
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間 (土日含む) を使う
14	授業内容 (担当教員)	データ分析 (属性と他項目のクロス集計結果の分析)
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間 (土日含む) を使う
15	授業内容 (担当教員)	データ集計 (主要項目間のクロス集計)
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間 (土日含む) を使う
16	授業内容 (担当教員)	データ分析 (主要項目間のクロス集計の分析)
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間 (土日含む) を使う
17	授業内容 (担当教員)	データ分析から得られた知見のまとめ
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間 (土日含む) を使う
18	授業内容 (担当教員)	中間発表会のプレゼンテーションの準備
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・場合によっては講義時間以外の空き時間 (土日含む) を使う
19	授業内容 (担当教員)	中間発表会
	授業方法 / 進め方	データ分析結果の中間発表会。分析過程や結果を検討し、さらに分析を進める。
20	授業内容 (担当教員)	中間発表会
	授業方法 / 進め方	データ分析結果の中間発表会。分析過程や結果を検討し、さらに分析を進める。
21	授業内容 (担当教員)	報告書の構成案作成、執筆分担決定
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・報告書を執筆する ・場合によっては講義時間以外の空き時間 (土日含む) を使う
	事前・事後学習	報告書の構想を検討
22	授業内容 (担当教員)	報告書原稿執筆 (調査実施概要)
	授業方法 / 進め方	・調査グループに分かれて作業 ・報告書を執筆する ・場合によっては講義時間以外の空き時間 (土日含む) を使う
	事前・事後学習	報告書執筆

23	授業内容（担当教員）	報告書原稿執筆（単純集計の図表作成と分析）
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査グループに分かれて作業 ・ 報告書を執筆する ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
24	授業内容（担当教員）	報告書原稿執筆（属性と他項目のクロス集計の図表作成と分析）
	授業方法 / 進め方	報告会を行う。今回の調査で得られた反省点を討議する。
25	授業内容（担当教員）	報告書原稿執筆（主要項目間のクロス集計の図表作成と分析）
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査グループに分かれて作業 ・ 報告書を執筆する。 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
26	授業内容（担当教員）	仮説の検証と考察
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査グループに分かれて作業 ・ 報告書を執筆する。 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
27	授業内容（担当教員）	報告書原稿執筆（仮説検証結果の説明）
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査グループに分かれて作業 ・ 報告書を執筆する。 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
28	授業内容（担当教員）	報告書原稿に関する検討会
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査グループに分かれて作業 ・ 報告書を執筆する。 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
29	授業内容（担当教員）	検討会での意見を踏まえて報告書原稿修正
	授業方法 / 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査グループに分かれて作業 ・ 報告書を執筆する。 ・ 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う
30	授業内容（担当教員）	報告書原稿完成、公開（プレゼンテーション）
	事前・事後学習	調査の全過程を点検
備考	各回の内容は調査を行うという授業の性格上、進行具合によって予定を変更する場合がある。	

科目名	学校ソーシャルワーク演習		
科目名(英語)	Seminar in School Social Work		
担当教員	寺田 千栄子		
科目区分	人間社会学部 社会福祉学科、スクールソーシャルワーク教育課程		
標準履修年次	4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

本演習では、スクールソーシャルワーカーが学校ソーシャルワーク実践を行ううえで身につけておくべき 価値・倫理、子どもを取り巻く学校・地域の状況理解、 ケースマネジメント、 面接技法、 アウトリーチ、 チームアプローチ、 ネットワーキング、 コンサルテーション、 記録、 スーパービジョン に関する体験的学びから理解を深めていく。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

社会福祉士国家資格受験に必要な科目の習得
「学校ソーシャルワーク実習」履修希望者

関連資格

社会福祉士、スクールソーシャルワーカー

テキスト

なし

参考図書・教材等

- ・門田光司・奥村賢一『スクールソーシャルワーカーのしごと』中央法規 2009年(2,592円)
- ・門田光司・鈴木庸裕編『学校ソーシャルワーク演習』ミネルヴァ書房 2010年(3,024円)
- ・その他、授業時に適宜プリントや資料等を配布する。

実務経験を生かした授業

スクールソーシャルワーカーとして勤務した経験のある教員が、実践力向上に向けて身につけておくべき学校ソーシャルワークの専門的知識、技術、価値・倫理をワークショップ形式などの演習を用いて実践的な指導を行う。

学習相談・助言体制

授業の中で随時、対応していく

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2)	専門的な価値と知識に基づく学校ソーシャルワークの技能を身につけている。
-------	-------------------------------------

思考・判断・表現

(DP3)	スクール(学校)ソーシャルワーカーとしての価値・倫理を理解したうえで、学校ソーシャルワーク実習に臨む意欲と態度を示すことができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

スクールソーシャルワーカーが学校ソーシャルワーク実践を行ううえで求められる 価値・倫理、子どもを取り巻く学校・地域の状況理解、 ケースマネジメント、 面接技法、 アウトリーチ、 チームアプローチ、 ネットワーキング、 コンサルテーション、 記録、 スーパービジョンの知識を実際的に活用することができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

スクールソーシャルワーカーが学校ソーシャルワーク実践を行ううえで身につけておくべき 価値・倫理、子どもを取り巻く学校・地域の状況理解、 ケースマネジメント、 面接技法、 アウトリーチ、 チームアプローチ、 ネットワーキング、 コンサルテーション、 記録、 スーパービジョンについて説明することができる。

成績評価の基準

S: 90 ~ 100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A: 80 ~ 89	履修目標を達成している。
B: 70 ~ 79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60 ~ 69	到達目標を達成している。
不可: ~ 59	到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業内レポート・小テスト	50	知識・技能(DP2)
発表	50	知識・技能(DP2) , 思考・判断・表現(DP3)

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
演習

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	オリエンテーション
	授業方法/進め方	演習・質疑応答
2	授業内容(担当教員)	スクールソーシャルワーカーに求められる価値・倫理
	授業方法/進め方	演習・質疑応答
3	授業内容(担当教員)	子ども取り巻く学校・地域の状況 理解 (教育アセスメント)
	授業方法/進め方	演習・質疑応答
4	授業内容(担当教員)	子ども取り巻く学校・地域の状況 理解 (教育アセスメント)
	授業方法/進め方	演習・質疑応答
5	授業内容(担当教員)	子ども取り巻く学校・地域の状況 理解 (地域アセスメント)
	授業方法/進め方	演習・質疑応答
6	授業内容(担当教員)	子ども取り巻く学校・地域の状況 理解 (地域アセスメント)
	授業方法/進め方	演習・質疑応答
7	授業内容(担当教員)	ケースマネジメント(アセスメント)
	授業方法/進め方	演習・質疑応答
8	授業内容(担当教員)	ケースマネジメント(アセスメント)
	授業方法/進め方	演習・質疑応答
9	授業内容(担当教員)	ケースマネジメント(プランニング)
	授業方法/進め方	演習・質疑応答
10	授業内容(担当教員)	ケースマネジメント(プランニング)
	授業方法/進め方	演習・質疑応答
11	授業内容(担当教員)	ケースマネジメント(モニタリング)
	授業方法/進め方	演習・質疑応答
12	授業内容(担当教員)	ケースマネジメント(モニタリング)
	授業方法/進め方	演習・質疑応答
13	授業内容(担当教員)	面接技法
	授業方法/進め方	演習・質疑応答
14	授業内容(担当教員)	面接技法
	授業方法/進め方	演習・質疑応答
15	授業内容(担当教員)	面接技法
	授業方法/進め方	演習・質疑応答

16	授業内容（担当教員）	アウトリーチ
	授業方法 / 進め方	演習・質疑応答
17	授業内容（担当教員）	アウトリーチ
	授業方法 / 進め方	演習・質疑応答
18	授業内容（担当教員）	チームアプローチ
	授業方法 / 進め方	演習・質疑応答
19	授業内容（担当教員）	チームアプローチ
	授業方法 / 進め方	演習・質疑応答
20	授業内容（担当教員）	チームアプローチ
	授業方法 / 進め方	演習・質疑応答
21	授業内容（担当教員）	チームアプローチ
	授業方法 / 進め方	演習・質疑応答
22	授業内容（担当教員）	ネットワーキング
	授業方法 / 進め方	演習・質疑応答
23	授業内容（担当教員）	ネットワーキング
	授業方法 / 進め方	演習・質疑応答
24	授業内容（担当教員）	コンサルテーション
	授業方法 / 進め方	演習・質疑応答
25	授業内容（担当教員）	コンサルテーション
	授業方法 / 進め方	演習・質疑応答
26	授業内容（担当教員）	記録法
	授業方法 / 進め方	演習・質疑応答
27	授業内容（担当教員）	記録法
	授業方法 / 進め方	演習・質疑応答
28	授業内容（担当教員）	スーパービジョン
	授業方法 / 進め方	演習・質疑応答
29	授業内容（担当教員）	スーパービジョン
	授業方法 / 進め方	演習・質疑応答
30	授業内容（担当教員）	まとめ
	授業方法 / 進め方	演習・質疑応答

科目名	学校ソーシャルワーク論		
科目名（英語）	School Social Work Theory		
担当教員	奥村 賢一		
科目区分	人間社会学部 社会福祉学科、スクールソーシャルワーク教育課程		
標準履修年次	3～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

本講義では、今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性、学校ソーシャルワークの発展過程、海外のスクールソーシャルワーカーの役割と活動、学校ソーシャルワークの実践モデル、スクールソーシャルワーカーのスーパービジョンの必要性、以上5点について重点的に理解を深めていく。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

- ・「学校ソーシャルワーク実習」履修希望者
- ・「相談援助実習」を履修済みであること
- ・「家族福祉論」を履修することが望ましい

関連資格

スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程修了資格

テキスト

・日本学校ソーシャルワーク学会編『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』、中央法規出版、2008年（3,240円） 購入方法等については初回の授業で説明を行う

参考図書・教材等

- ・門田光司・奥村賢一『スクールソーシャルワーカーのしごと』、中央法規、2009年（2,592円）
- ・門田光司・奥村賢一監修『スクールソーシャルワーカー実践事例集』、中央法規、2014年（2,592円）
- ・金澤ますみ・奥村賢一・郭理恵・野尻紀恵編『新版 スクールソーシャルワーカー実務テキスト』、学事出版、2019年（2,750円）

実務経験を生かした授業

スクールソーシャルワーカーや児童指導員としての実務経験のある教員が、子どもや家庭に対して行われる相談援助活動の支援事例等を用いて具体的な解説を行う。

学習相談・助言体制

- ・授業時間内で質疑応答を随時受け付ける。
- ・オフィスアワーの時間帯に相談や質問を受け付ける。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	学校ソーシャルワークを実践するうえで求められる学校教育および社会福祉等の専門的知識を体系的に理解したうえで、学校現場における学校ソーシャルワーク実践の必要性ならびにスクール（学校）ソーシャルワーカーの役割・機能を具体的な活動内容に照らし合わせて説明することができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

今日の学校現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性、学校ソーシャルワークの発展過程、海外のスクールソーシャルワーカーの役割と活動、学校ソーシャルワークの実践モデル、スクールソーシャルワーカーのスーパービジョンの必要性について、自らの考えを踏まえ具体的に説明することができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

学校現場や児童生徒が抱える諸課題を理解するとともに、スクールソーシャルワーカーに求められる専門的役割や機能について説明することができる。

成績評価の基準

S: 90 ~ 100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A: 80 ~ 89	履修目標を達成している。
B: 70 ~ 79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60 ~ 69	到達目標を達成している。
不可: ~ 59	到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業内レポート・小テスト	30	知識・技能(DP1) : 30
発表	50	知識・技能(DP1) : 50
その他	20	知識・技能(DP1) : 20

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
発見学習 / 問題解決学習

回	授業計画	
1	授業内容 (担当教員)	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の情勢
	授業方法 / 進め方	<p>講義は、パワーポイントや視聴覚教材を中心に解説や説明を行う。</p> <p>テキストとプリントを中心に講義を進める。</p> <p>単元により、グループ討議などを取り入れていく。</p> <p>単元により、ミニレポートの提出を求める。</p> <p>学生の理解状況に合わせて、授業の進度を調整していきたい。</p> <p>事前・事後学習の課題内容については、毎回授業の最後に指示をする。</p>
	事前・事後学習	講義終了時に指示する
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習

2	授業内容（担当教員）	学校ソーシャルワークの価値・倫理
	授業方法 / 進め方	<p>講義は、パワーポイントや視聴覚教材を中心に解説や説明を行う。</p> <p>テキストとプリントを中心に講義を進める。</p> <p>単元により、グループ討議などを取り入れていく。</p> <p>単元により、ミニレポートの提出を求める。</p> <p>学生の理解状況に合わせて、授業の進度を調整していきたい。</p> <p>事前・事後学習の課題内容については、毎回授業の最後に指示をする。</p>
	事前・事後学習	授業内容（第2回）の復習と次回の予習
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
3	授業内容（担当教員）	アメリカでのスクール（学校）ソーシャルワーカーの発展史
	授業方法 / 進め方	<p>講義は、パワーポイントや視聴覚教材を中心に解説や説明を行う。</p> <p>テキストとプリントを中心に講義を進める。</p> <p>単元により、グループ討議などを取り入れていく。</p> <p>単元により、ミニレポートの提出を求める。</p> <p>学生の理解状況に合わせて、授業の進度を調整していきたい。</p> <p>事前・事後学習の課題内容については、毎回授業の最後に指示をする。</p>
	事前・事後学習	授業内容（第3回）の復習と次回の予習
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習

4	授業内容（担当教員）	諸外国のスクール（学校）ソーシャルワーカーの活動
	授業方法 / 進め方	<p>講義は、パワーポイントや視聴覚教材を中心に解説や説明を行う。</p> <p>テキストとプリントを中心に講義を進める。</p> <p>単元により、グループ討議などを取り入れていく。</p> <p>単元により、ミニレポートの提出を求める。</p> <p>学生の理解状況に合わせて、授業の進度を調整していきたい。</p> <p>事前・事後学習の課題内容については、毎回授業の最後に指示をする。</p>
	事前・事後学習	授業内容（第4回）の復習と次回の予習
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
5	授業内容（担当教員）	諸外国のスクール（学校）ソーシャルワーカーの活動
	授業方法 / 進め方	<p>講義は、パワーポイントや視聴覚教材を中心に解説や説明を行う。</p> <p>テキストとプリントを中心に講義を進める。</p> <p>単元により、グループ討議などを取り入れていく。</p> <p>単元により、ミニレポートの提出を求める。</p> <p>学生の理解状況に合わせて、授業の進度を調整していきたい。</p> <p>事前・事後学習の課題内容については、毎回授業の最後に指示をする。</p>
	事前・事後学習	授業内容（第5回）の復習と次回の予習
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習

6	授業内容（担当教員）	わが国での学校ソーシャルワークの発展史
	授業方法 / 進め方	<p>講義は、パワーポイントや視聴覚教材を中心に解説や説明を行う。</p> <p>テキストとプリントを中心に講義を進める。</p> <p>単元により、グループ討議などを取り入れていく。</p> <p>単元により、ミニレポートの提出を求める。</p> <p>学生の理解状況に合わせて、授業の進度を調整していきたい。</p> <p>事前・事後学習の課題内容については、毎回授業の最後に指示をする。</p>
	事前・事後学習	授業内容（第6回）の復習と次回の予習
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
7	授業内容（担当教員）	わが国のスクール（学校）ソーシャルワーカーの活動
	授業方法 / 進め方	<p>講義は、パワーポイントや視聴覚教材を中心に解説や説明を行う。</p> <p>テキストとプリントを中心に講義を進める。</p> <p>単元により、グループ討議などを取り入れていく。</p> <p>単元により、ミニレポートの提出を求める。</p> <p>学生の理解状況に合わせて、授業の進度を調整していきたい。</p> <p>事前・事後学習の課題内容については、毎回授業の最後に指示をする。</p>
	事前・事後学習	授業内容（第7回）の復習と次回の予習
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習

8	授業内容（担当教員）	学校ソーシャルワークの実践モデルの概要
	授業方法 / 進め方	<p>講義は、パワーポイントや視聴覚教材を中心に解説や説明を行う。</p> <p>テキストとプリントを中心に講義を進める。</p> <p>単元により、グループ討議などを取り入れていく。</p> <p>単元により、ミニレポートの提出を求める。</p> <p>学生の理解状況に合わせて、授業の進度を調整していきたい。</p> <p>事前・事後学習の課題内容については、毎回授業の最後に指示をする。</p>
	事前・事後学習	授業内容（第8回）の復習と次回の予習
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
9	授業内容（担当教員）	学校ソーシャルワークの個別及び集団支援の実例
	授業方法 / 進め方	<p>講義は、パワーポイントや視聴覚教材を中心に解説や説明を行う。</p> <p>テキストとプリントを中心に講義を進める。</p> <p>単元により、グループ討議などを取り入れていく。</p> <p>単元により、ミニレポートの提出を求める。</p> <p>学生の理解状況に合わせて、授業の進度を調整していきたい。</p> <p>事前・事後学習の課題内容については、毎回授業の最後に指示をする。</p>
	事前・事後学習	授業内容（第9回）の復習と次回の予習
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習

10	授業内容（担当教員）	学校ソーシャルワークの個別及び集団支援の実際例
	授業方法 / 進め方	<p>講義は、パワーポイントや視聴覚教材を中心に解説や説明を行う。</p> <p>テキストとプリントを中心に講義を進める。</p> <p>単元により、グループ討議などを取り入れていく。</p> <p>単元により、ミニレポートの提出を求める。</p> <p>学生の理解状況に合わせて、授業の進度を調整していきたい。</p> <p>事前・事後学習の課題内容については、毎回授業の最後に指示をする。</p>
	事前・事後学習	授業内容（第10回）の復習と次回の子習
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
11	授業内容（担当教員）	学校ソーシャルワークの学校・家庭・地域協働支援の実際例
	授業方法 / 進め方	<p>講義は、パワーポイントや視聴覚教材を中心に解説や説明を行う。</p> <p>テキストとプリントを中心に講義を進める。</p> <p>単元により、グループ討議などを取り入れていく。</p> <p>単元により、ミニレポートの提出を求める。</p> <p>学生の理解状況に合わせて、授業の進度を調整していきたい。</p> <p>事前・事後学習の課題内容については、毎回授業の最後に指示をする。</p>
	事前・事後学習	授業内容（第11回）の復習と次回の子習
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習

12	授業内容（担当教員）	学校ソーシャルワークの学校・家庭・地域協働支援の実際例
	授業方法 / 進め方	<p>講義は、パワーポイントや視聴覚教材を中心に解説や説明を行う。</p> <p>テキストとプリントを中心に講義を進める。</p> <p>単元により、グループ討議などを取り入れていく。</p> <p>単元により、ミニレポートの提出を求める。</p> <p>学生の理解状況に合わせて、授業の進度を調整していきたい。</p> <p>事前・事後学習の課題内容については、毎回授業の最後に指示をする。</p>
	事前・事後学習	授業内容（第12回）の復習と次回の子習
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
13	授業内容（担当教員）	学校ソーシャルワークの教育行政に対する支援
	授業方法 / 進め方	<p>講義は、パワーポイントや視聴覚教材を中心に解説や説明を行う。</p> <p>テキストとプリントを中心に講義を進める。</p> <p>単元により、グループ討議などを取り入れていく。</p> <p>単元により、ミニレポートの提出を求める。</p> <p>学生の理解状況に合わせて、授業の進度を調整していきたい。</p> <p>事前・事後学習の課題内容については、毎回授業の最後に指示をする。</p>
	事前・事後学習	授業内容（第13回）の復習と次回の子習
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習

14	授業内容（担当教員）	スクール（学校）ソーシャルワーカーのスーパービジョン
	授業方法 / 進め方	<p>講義は、パワーポイントや視聴覚教材を中心に解説や説明を行う。</p> <p>テキストとプリントを中心に講義を進める。</p> <p>単元により、グループ討議などを取り入れていく。</p> <p>単元により、ミニレポートの提出を求める。</p> <p>学生の理解状況に合わせて、授業の進度を調整していきたい。</p> <p>事前・事後学習の課題内容については、毎回授業の最後に指示をする。</p>
	事前・事後学習	授業内容（第14回）の復習と次回の予習
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
15	授業内容（担当教員）	まとめ
	授業方法 / 進め方	講義の最後に小テストを実施
	事前・事後学習	授業終了時に指示する
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習

科目名	教育相談		
科目名（英語）	Educational Counseling		
担当教員	岩橋 宗哉		
科目区分	人間社会学部 公共社会学科、人間社会学部 社会福祉学科、人間社会学部 人間形成学科、看護学部 看護学科、高等学校教諭一種免許（公民）、高等学校教諭一種免許（情報）、中学校教諭一種免許（社会）、スクールソーシャルワーク教育課程、公認心理師国家試験受験資格、養護教諭一種免許		
標準履修年次	4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

1. 児童、生徒によくみられる問題やその背景について、発達課題も踏まえた理解やそれへの支援について事例を通して学ぶ。またそれにより、教育現場におけるカウンセリングの基礎的な知識やかかわり方について理解する。
2. 子どもたちによりよい援助を提供するためには、保護者、教師集団、スクールカウンセラーなどが連携しあうことが不可欠である。連携の重要性とその方法について理解する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

特になし

関連資格

人間社会学部 公共社会学科、人間社会学部 社会福祉学科、人間社会学部 人間形成学科、高等学校教諭一種免許（公民）、中学校教諭一種免許（社会）、スクールソーシャルワーク教育課程、公認心理師国家試験受験資格

テキスト

石隈利紀編「教育・学校心理学(公認心理師の基礎と実践18)」遠見書房(2019)2600円

参考図書・教材等

- 古橋啓介・門田光司・岩橋宗哉編「子どもの発達臨床と学校ソーシャルワーク」ミネルヴァ書房(2004)1700円
 菅佐和子・木之下隆夫編「学校現場に役立つ臨床心理学」日本評論社(2001)1600円
 石隈利紀・村田節子著「チーム援助入門」図書文化(2003)2500円
 田島誠一「現実に介入しつつ心に関わる-多面的援助アプローチと臨床の知恵」金剛出版(2009)4180円

実務経験を生かした授業

医療機関、心理教育相談室、スクールカウンセリング等での心理支援に従事した経験を生かして授業を行う。

学習相談・助言体制

授業の最後に質問等を書く用紙に記入してもらい、授業中に回答していきます。さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後や、質問時間をメールを使って予約してください。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	教育現場において生じる子どもの問題や課題及びその背景と必要な支援について説明できる。 教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)や具体的な進め方を説明できる。 子どもに支援における組織的な取組みや連携の必要性を説明できる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

発表やディスカッションを通して、自分の考えを持ち、DP1の内容について説明できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

DP1の内容について説明できる。

成績評価の基準

S: 90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

A: 80～89 履修目標を達成している。

B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C: 60～69 到達目標を達成している。

不可: ～59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業内レポート・小テスト	50	知識・技能(DP1)：50
発表	50	知識・技能(DP1)：50

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

発表とディスカッション

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	ガイダンス(本授業の説明と教育相談の意義)
	授業方法/進め方	講義
2	授業内容(担当教員)	カウンセリングに関する基礎的な理論
	授業方法/進め方	講義
	アクティブ・ラーニング	その他
3	授業内容(担当教員)	子どもの発達課題への取り組みの理解と援助
	授業方法/進め方	発表とディスカッション
	事前・事後学習	発表者は担当部分をまとめる。
	アクティブ・ラーニング	その他
4	授業内容(担当教員)	子どもの教育課題への取り組みの援助
	授業方法/進め方	発表とディスカッション
	事前・事後学習	発表者は担当部分をまとめる。
	アクティブ・ラーニング	その他
5	授業内容(担当教員)	スクールカウンセリングの枠組み
	授業方法/進め方	発表とディスカッション
	事前・事後学習	発表者は担当部分をまとめる。
	アクティブ・ラーニング	その他
6	授業内容(担当教員)	子どもの多様な援助者によるチーム援助
	授業方法/進め方	発表とディスカッション
	事前・事後学習	発表者は担当部分をまとめる。
	アクティブ・ラーニング	その他
7	授業内容(担当教員)	3段階の心理教育的援助サービス
	授業方法/進め方	発表とディスカッション
	事前・事後学習	発表者は担当部分をまとめる。
	アクティブ・ラーニング	その他
8	授業内容(担当教員)	発達障害の理解と援助
	授業方法/進め方	発表とディスカッション
	事前・事後学習	発表者は担当部分をまとめる。
	アクティブ・ラーニング	その他

9	授業内容（担当教員）	不登校の理解と援助(1)
	授業方法 / 進め方	発表とディスカッション
	事前・事後学習	発表者は担当部分をまとめる。
	アクティブ・ラーニング	その他
10	授業内容（担当教員）	不登校の理解と援助(2) 家庭訪問の方法
	授業方法 / 進め方	発表とディスカッション
	事前・事後学習	発表者は担当部分をまとめる。
	アクティブ・ラーニング	その他
11	授業内容（担当教員）	いじめの理解と援助
	授業方法 / 進め方	発表とディスカッション
	事前・事後学習	発表者は担当部分をまとめる。
	アクティブ・ラーニング	その他
12	授業内容（担当教員）	非行の理解と非行をする子供の援助
	授業方法 / 進め方	発表とディスカッション
	事前・事後学習	発表者は担当部分をまとめる。
	アクティブ・ラーニング	その他
13	授業内容（担当教員）	学校における危機対応
	授業方法 / 進め方	発表とディスカッション
	事前・事後学習	発表者は担当部分をまとめる。
	アクティブ・ラーニング	その他
14	授業内容（担当教員）	地域ネットワークづくり
	授業方法 / 進め方	発表とディスカッション
	事前・事後学習	発表者は担当部分をまとめる。
	アクティブ・ラーニング	その他
15	授業内容（担当教員）	まとめ

科目名	更生保護		
科目名（英語）	Rehabilitation of Offenders		
担当教員	今村 浩司		
科目区分	人間社会学部 社会福祉学科、社会福祉士国家試験受験資格、精神保健福祉士国家試験受験資格、公認心理師国家試験受験資格		
標準履修年次	3～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

更生保護制度の歴史的背景や現状を正しく理解し、その概念と構成を学ぶ。また、更生保護制度の概要や基本的用語も理解をしていく。その中で現状、課題、対策などを検討していくとともに、社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師の役割について考えていく。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

事例をもとにグループワークを行う場合があるので、受講生の積極的な参画を望む。

関連資格

社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師

テキスト

『更生保護制度』社会福祉士シリーズ20、弘文堂（最新版）

参考図書・教材等

随時講義内で紹介していく。資料を配布して説明を行う場合がある。

実務経験を生かした授業

刑事施設において触法障害者や高齢者支援を行った経験のある社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師の有資格の教員が、更生保護領域の実践場面での役割や、多機関多職種等との連携の在り方等を解説する。また、現役の法務省関連機関等の職員を、ゲストスピーカーとして招聘予定である。

授業中の撮影

可

学習相談・助言体制

講義の前後の時間随時可。またEメールも可。（imamura_k@seinan-jo.ac.jp）

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	<ol style="list-style-type: none"> 1、更生保護制度を説明することができる。 2、医療観察法を説明することができる。 3、更生保護における社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師の役割の説明ができる。 4、更生保護における関係機関、団体及びその専門職との連携について説明ができる。 5、更生保護の実践と今後の課題、展望について説明ができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

更生保護制度の歴史的背景、概念、構成について。

更生保護制度の概要や基本的用語について。

更生保護の現状、課題、対策等を理解し、社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師の役割について。

以上の3点について、正確に理解をした上で、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

履修目標に掲げた目標に関して、基本的用語の理解ができる。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

履修目標に掲げた3点に関して、実践での応用方法も含めて理解をした上で、自らの考えを複数の論点から分かりやすくまとめることができる。

A: 80～89 履修目標を達成している。

履修目標に掲げた3点に関して、正確に理解した上で、自らの考えを分かりやすくまとめることができる。

B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

履修目標に掲げた3点に関して、ある程度理解した上で、自らの考えをまとめることができる。

C: 60～69 到達目標を達成している。

履修目標に掲げた3点に関して、基本的用語の理解ができる。

不可: ～59 到達目標を達成できていない。

履修目標に掲げた3点に関して、基本的用語の理解ができていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	70	知識・技能(DP1) : 70
授業外レポート・宿題	10	知識・技能(DP1) : 10
その他	20	知識・技能(DP1) : 20

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容	
少人数グループに分かれて、提供した事例について検討を行い、結果を発表する。	

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	更生保護と社会福祉 刑事司法の現況、更生保護法制
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
2	授業内容(担当教員)	更生保護制度の概要(1) 仮釈放と生活環境の調整、保護観察、
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
3	授業内容(担当教員)	更生保護制度の概要(2) 更生緊急保護、恩赦
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
4	授業内容(担当教員)	更生保護制度の概要(3) 犯罪予防、被害者支援
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
5	授業内容(担当教員)	更生保護の担い手 地方更生保護委員会、保護観察所、民間協力者、更生保護施設
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認

6	授業内容（担当教員）	関係機関・団体との連携（１） 裁判所、検察庁、矯正施設
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
7	授業内容（担当教員）	関係機関・団体との連携（２） 福祉事務所や公共職業安定所
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
8	授業内容（担当教員）	矯正施設と処遇（１） 矯正施設と更生保護制度
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
9	授業内容（担当教員）	矯正施設と処遇（２） 刑事収容施設（ゲストスピーカー予定）
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
10	授業内容（担当教員）	矯正施設と処遇（３） 社会復帰援助の現状と展望
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
11	授業内容（担当教員）	医療観察制度の概要（１） 医療観察法について（ゲストスピーカー予定）
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
12	授業内容（担当教員）	医療観察制度の概要（２） 指定入院医療機関、指定通院医療機関
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
13	授業内容（担当教員）	医療観察制度の概要（３） 社会復帰調整官、地域処遇
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
14	授業内容（担当教員）	更生保護における動向と課題（１） 少年司法について
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認
15	授業内容（担当教員）	更生保護における動向と課題（２） 更生保護の総まとめ
	授業方法／進め方	講義
	事前・事後学習	教科書該当部分の通読 配布資料の確認

科目名	高齢者福祉論		
科目名（英語）	Social work and Long-term Care Insurance System for the elderly person		
担当教員	本郷 秀和		
科目区分	人間社会学部 社会福祉学科、社会福祉士国家試験受験資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

本講義では、社会福祉士等のソーシャルワーカーにとって必須知識となる高齢者福祉について幅広く体系的に学習する。

高齢者に関する基本理解（全体動向と生活問題、身体面、精神心理面、社会環境面）と福祉支援の方法、介護保険法や老人福祉法、高齢者虐待防止法等の高齢者関連の法制度と支援組織。高齢者保健福祉サービスの提供体制等を学習する。本シラバス作成時点において使用テキストが未発行であるため、テキストの目次に沿って展開する。したがって、下記15回の内容は参考とし、第1回授業にて授業計画を説明する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

- * 「介護福祉論」（2年後期）を履修することが望ましい。
- * 高齢者の福祉用具や住宅改修の学習については「福祉住環境論」（3年前期）を履修することが望ましい。

関連資格

社会福祉士国家試験受験資格

テキスト

指定テキスト：川村匡由編、『入門 高齢者福祉』ミネルヴァ書房（2023年3月発行予定）

参考図書・教材等

参考図書：九州社会福祉研究会編（編集代表：田畑洋一・門田光司・鬼崎信好・倉田康路・片岡靖子・本郷秀和）『第3版 21世紀の現代社会福祉用語辞典』、学文社、2022年2月発行、3630円（税込）。
（*本辞典は、他の科目でも使用予定）

実務経験を生かした授業

デイサービスやホームヘルプでの業務経験を活かし、具体的な事例を取り入れた授業を行いたい。

授業中の撮影

- ・必要性がある場合のみ。

学習相談・助言体制

・毎回の講義の最後5分程度を質問時間として確保したい。授業時間以外（授業等がない場合）やメールでの質問にも応じます。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の動向や高齢期の特性、法制度（介護保険制度等）、各種の支援組織・サービス等について説明できる。 ・高齢者が抱える生活問題や権利擁護の必要性について、理由を挙げて説明できる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

以下の点を説明できる能力を身につける。

- (1) 高齢者と少子高齢社会の状況
- (2) 高齢者の生活実態と社会環境
- (3) 高齢者（保健）福祉の歴史と理念
- (4) 介護保険制度（サービス体系・種類を含む）
- (5) 高齢者福祉の関連制度
- (6) 高齢者と家族の支援と関係機

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

以下の点を説明できる能力を身につける。

- (1) 高齢者と少子高齢社会の状況
- (2) 高齢者の生活実態と社会環境
- (3) 高齢者（保健）福祉の歴史と理念
- (4) 介護保険制度（サービス体系・種類を含む）
- (5) 高齢者福祉の関連制度
- (6) 高齢者と家族の支援と関係機関・専門職の役割と実際

成績評価の基準

S: 90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

到達目標の6点について、ほぼ完全に説明できる。

A: 80～89 履修目標を達成している。

到達目標の6点について、おおむね説明できる。

B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

到達目標の6点について、ある程度説明できる。

C: 60～69 到達目標を達成している。

到達目標の6点について、最低限のポイントを説明できる。

不可: ～59 到達目標を達成できていない。

到達目標の6点について、全く・ほぼ説明できない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業内レポート・小テスト	100	知識・技能(DP1)：100
備考	* 15回目の小テストで60%以上の正答率を単位認定要件とします。	

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

回	授業計画
---	------

1	授業内容（担当教員）	オリエンテーション、老化を感じると気とは、高齢者と少子高齢社会
	授業方法／進め方	対面授業（原則）老化を感じるときとは。
	事前・事後学習	事前事後ともに教科書の目次を読んで授業内容の全体を理解しておく。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
2	授業内容（担当教員）	高齢者と少子高齢社会
	授業方法／進め方	対面授業、必要に応じてプリント、パワーポイント、DVD、インターネットなどを使用する。
	事前・事後学習	授業で説明した事柄について復習し、次回の説明予定の章や節について読んでおく。
3	授業内容（担当教員）	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境
	授業方法／進め方	対面授業、必要に応じてプリント、パワーポイント、DVD、インターネットなどを使用する。
	事前・事後学習	授業で説明した事柄について復習し、次回の説明予定の章や節について読んでおく。
4	授業内容（担当教員）	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境、高齢者（保健）福祉の歴史と理念
	授業方法／進め方	対面授業、必要に応じてプリント、パワーポイント、DVD、インターネットなどを使用する。
	事前・事後学習	授業で説明した事柄について復習し、次回の説明予定の章や節について読んでおく。
5	授業内容（担当教員）	高齢者（保健）福祉の歴史と理念
	授業方法／進め方	対面授業、必要に応じてプリント、パワーポイント、DVD、インターネットなどを使用する。
	事前・事後学習	授業で説明した事柄について復習し、次回の説明予定の章や節について読んでおく。
6	授業内容（担当教員）	介護保険制度
	授業方法／進め方	対面授業、必要に応じてプリント、パワーポイント、DVD、インターネットなどを使用する。
	事前・事後学習	授業で説明した事柄について復習し、次回の説明予定の章や節について読んでおく。
7	授業内容（担当教員）	介護保険制度
	授業方法／進め方	対面授業、必要に応じてプリント、パワーポイント、DVD、インターネットなどを使用する。
	事前・事後学習	授業で説明した事柄について復習し、次回の説明予定の章や節について読んでおく。
8	授業内容（担当教員）	介護保険制度
	授業方法／進め方	対面授業、必要に応じてプリント、パワーポイント、DVD、インターネットなどを使用する。
	事前・事後学習	授業で説明した事柄について復習し、次回の説明予定の章や節について読んでおく。
9	授業内容（担当教員）	介護保険制度
	授業方法／進め方	対面授業、必要に応じてプリント、パワーポイント、DVD、インターネットなどを使用する。
	事前・事後学習	授業で説明した事柄について復習し、次回の説明予定の章や節について読んでおく。

10	授業内容（担当教員）	高齢者に対する関連諸制度
	授業方法 / 進め方	対面授業、必要に応じてプリント、パワーポイント、DVD、インターネットなどを使用する。
	事前・事後学習	授業で説明した事柄について復習し、次回の説明予定の章や節について読んでおく。
11	授業内容（担当教員）	高齢者に対する関連諸制度
	授業方法 / 進め方	対面授業、必要に応じてプリント、パワーポイント、DVD、インターネットなどを使用する。
	事前・事後学習	授業で説明した事柄について復習し、次回の説明予定の章や節について読んでおく。
12	授業内容（担当教員）	高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割
	授業方法 / 進め方	対面授業、必要に応じてプリント、パワーポイント、DVD、インターネットなどを使用する。
	事前・事後学習	授業で説明した事柄について復習し、次回の説明予定の章や節について読んでおく。
13	授業内容（担当教員）	高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割
	授業方法 / 進め方	対面授業、必要に応じてプリント、パワーポイント、DVD、インターネットなどを使用する。
	事前・事後学習	授業で説明した事柄について復習し、次回の説明予定の章や節について読んでおく。
14	授業内容（担当教員）	高齢者と家族等に対する支援の実際
	授業方法 / 進め方	対面授業、必要に応じてプリント、パワーポイント、DVD、インターネットなどを使用する。
	事前・事後学習	授業で説明した事柄について復習し、次回の説明予定の章や節について読んでおく。
15	授業内容（担当教員）	・全体のまとめ質疑応答 ・小テストとその解説
	授業方法 / 進め方	対面授業、必要に応じてプリント、パワーポイント、DVD、インターネットなどを使用する。
	事前・事後学習	授業全体の振り返りをしておく。
備考	カリキュラム改正に伴い、授業内容はおおむねの流れを意味します。	

科目名	社会福祉学演習		
科目名（英語）	Seminar in Social Welfare		
担当教員	本郷 秀和		
科目区分	人間社会学部 社会福祉学科		
標準履修年次	3～4年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位	2単位

・科目情報

授業概要

本演習では、卒業論文につながるような各自の研究テーマの設定に当たり、まずテキストの理解を通じて社会福祉の基本事項を確認する。演習後半では、社会福祉に関する各種試験問題を使用し知識確認を行い、その後に企業研究・職場研究（福祉施設見学等に取り組む場合あり）を行う。具体的には、様々な福祉職の活動領域と社会福祉士の専門性・業務に関する事柄（例：業務内容の詳細や求人・待遇問題等）に関する事柄等を学び就職活動や卒論のテーマ選択に向けた準備を行う。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

社会福祉士の指定科目を履修しておくことが望ましい。

関連資格

卒業要件

テキスト

鬼崎信好・本郷秀和編著『コメディカルのための社会福祉概論 第5版』講談社、2022。

参考図書・教材等

・参考図書：九州社会福祉研究会編（編集代表：田畑洋一・門田光司・鬼崎信好・倉田康路・片岡靖子・本郷秀和）『第3版 21世紀の現代社会福祉用語辞典』、学文社、2022年2月発行、3630円（税込）。

*福祉公務員試験の専門科目関係のテキストまたは問題を使用する場合がある。

*社会福祉士国家試験問題（過去問）や受検テキストを使用する場合がある。その他、別途指示する。

実務経験を生かした授業

社会福祉経営者としての実務経験を活かし、定款、財務諸表、運営基準、契約書作成技法の理解に加え、就職先の探し方や留意点などの理解も深めたい。

授業中の撮影

予定なし

学習相談・助言体制

質問等があれば、適宜対応します。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の基礎知識を習得できる（主に前半）。 ・文献収集等を通じ、各自が卒論のテーマとする福祉課題を発見し、その現状や想定される課題を説明できる。 ・福祉ニーズの把握に関する基礎的な調査方法を説明できる。
-------	---

思考・判断・表現

(DP3)	・与えられたレポート課題等について、論理的な文章構成と適切な表現でまとめることができる。
-------	--

主体性・多様性・協働性

(DP4)	・与えられたレポート課題等について、計画的・主体的に取り組むことができる。
-------	---------------------------------------

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

社会福祉全般に関する基本知識を確認・習得する。

社会福祉の様々な運営主体、組織や事業所、ソーシャルワーカーの職場や役割、必要な知識、待遇、求人動向等を他者に説明できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

社会福祉全般に関する基本知識を確認・習得する。

社会福祉の様々な運営主体、組織や事業所、ソーシャルワーカーの職場や役割、必要な知識、待遇、求人動向等を他者に説明できる。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

到達目標の内容を、ほぼ完全に理解している。

A:80～89 履修目標を達成している。

到達目標の内容を、おおむね理解している。

B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

到達目標の内容を、ある程度理解している。

C:60～69 到達目標を達成している。

到達目標の内容の最低限のポイントを理解している。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

到達目標の内容を、あまり・ほとんど理解していない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業外レポート・宿題	100	知識・技能(DP2)：30，思考・判断・表現(DP3)：30，主体性・多様性・協働性(DP4)：40

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容	

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	・オリエンテーション ・各種調整、自己紹介、計画づくり
	授業方法/進め方	別途指示する。
	事前・事後学習	別途指示する。
2	授業内容(担当教員)	・卒業までの計画づくり
	授業方法/進め方	別途指示する。
	事前・事後学習	別途指示する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習/問題解決学習
3	授業内容(担当教員)	・卒業までの計画報告 ・社会福祉とは
	授業方法/進め方	指定教科書を使用して説明する。
	事前・事後学習	別途指示する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習/問題解決学習

4	授業内容（担当教員）	・社会福祉の歴史 ・社会保障と社会福祉の展開組織
	授業方法／進め方	指定教科書を使用して説明する。
	事前・事後学習	別途指示する。
5	授業内容（担当教員）	・子ども家庭福祉
	授業方法／進め方	指定教科書を使用して説明する。
	事前・事後学習	別途指示する。
6	授業内容（担当教員）	・障がい者福祉
	授業方法／進め方	指定教科書を使用して説明する。
	事前・事後学習	別途指示する。
7	授業内容（担当教員）	・高齢者福祉
	授業方法／進め方	指定教科書を使用して説明する。
	事前・事後学習	別途指示する。
8	授業内容（担当教員）	・介護保険制度とチームアプローチ
	授業方法／進め方	指定教科書を使用して説明する。
	事前・事後学習	別途指示する。
9	授業内容（担当教員）	・低所得者福祉
	授業方法／進め方	指定教科書を使用して説明する。
	事前・事後学習	別途指示する。
10	授業内容（担当教員）	・地域福祉とその推進方法
	授業方法／進め方	指定教科書を使用して説明する。
	事前・事後学習	別途指示する。
11	授業内容（担当教員）	・精神保健福祉と医療福祉
	授業方法／進め方	指定教科書を使用して説明する。
	事前・事後学習	別途指示する。
12	授業内容（担当教員）	・社会福祉施設の役割
	授業方法／進め方	指定教科書を使用して説明する。
	事前・事後学習	別途指示する。
13	授業内容（担当教員）	・社会福祉施設の役割 ・社会福祉を担う人々
	授業方法／進め方	指定教科書を使用して説明する。
	事前・事後学習	別途指示する。
14	授業内容（担当教員）	まとめの小テストと解説
	授業方法／進め方	指定教科書を使用して説明する。
	事前・事後学習	別途指示する。
15	授業内容（担当教員）	夏休み前の個別相談（順番に・・・）
	授業方法／進め方	別途指示する。
	事前・事後学習	別途指示する。
16	授業内容（担当教員）	福祉の基礎知識の確認（公務員問題、国家試験問題等を使用予定）
	授業方法／進め方	別途指示する。
	事前・事後学習	別途指示する。
17	授業内容（担当教員）	福祉の基礎知識の確認（公務員問題、国家試験問題等を使用予定）
	授業方法／進め方	別途指示する。
	事前・事後学習	別途指示する。
18	授業内容（担当教員）	福祉の基礎知識の確認（公務員問題、国家試験問題等を使用予定）
	授業方法／進め方	別途指示する。
	事前・事後学習	別途指示する。

19	授業内容（担当教員）	福祉の基礎知識の確認（公務員問題、国家試験問題等を使用予定）
	授業方法／進め方	別途指示する。
	事前・事後学習	別途指示する。
20	授業内容（担当教員）	福祉の基礎知識の確認（公務員問題、国家試験問題等を使用予定）
	授業方法／進め方	別途指示する。
	事前・事後学習	別途指示する。
21	授業内容（担当教員）	各自の問題意識の発見作業（複数可、卒論テーマにつなげることを前提に）レポート作成
	授業方法／進め方	問題の所在の発見とその現状に関するレポート（文献レビュー含む）
	事前・事後学習	別途指示する。
22	授業内容（担当教員）	各自の問題意識の発見作業（複数可、卒論テーマにつなげることを前提に）レポート作成
	授業方法／進め方	問題の所在の発見とその現状に関するレポート（文献レビュー含む）
	事前・事後学習	別途指示する。
23	授業内容（担当教員）	各自の問題意識の発見作業（複数可、卒論テーマにつなげることを前提に）レポート作成
	授業方法／進め方	問題の所在の発見とその現状に関するレポート（文献レビュー含む）
	事前・事後学習	別途指示する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習
24	授業内容（担当教員）	各自の問題意識の発見作業（複数可、卒論テーマにつなげることを前提に）レポート作成
	授業方法／進め方	問題の所在の発見とその現状に関するレポート（文献レビュー含む）
	事前・事後学習	別途指示する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習
25	授業内容（担当教員）	各自の問題意識の報告
	授業方法／進め方	各自のレポート報告
	事前・事後学習	別途指示する。
26	授業内容（担当教員）	福祉職リサーチと報告： 関心がある地域、福祉職、職名、所属組織、業務内容、給料、求人動向等を各自2つを調査し、レポートで報告する。
	授業方法／進め方	各自のレポート報告
	事前・事後学習	別途指示する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習
27	授業内容（担当教員）	福祉職リサーチと報告： 関心がある地域、福祉職、職名、所属組織、業務内容、給料、求人動向等を各自2つを調査し、レポートで報告する。
	授業方法／進め方	各自のレポート報告
	事前・事後学習	別途指示する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習／問題解決学習、体験学習／調査学習

28	授業内容（担当教員）	福祉職リサーチと報告： 関心がある地域、福祉職、職名、所属組織、業務内容、給料、求人動向等を各自2つを調査し、レポートで報告する。
	授業方法 / 進め方	各自のレポート報告
	事前・事後学習	別途指示する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習
29	授業内容（担当教員）	研究計画作成について
	授業方法 / 進め方	卒論の研究の目的、対象、方法、倫理、スケジュールなどについて原案を検討する。
	事前・事後学習	別途指示する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習
30	授業内容（担当教員）	福祉の就職活動について (センター見学予定、履歴書様式等)
	授業方法 / 進め方	卒論の研究の目的、対象、方法、倫理、スケジュールなどについて原案を検討する。
	事前・事後学習	別途指示する。
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習
備考	* 上記は予定ですので、各自の各自の関心・テーマの状況に応じて展開したいと思います。ご要望があれば、福祉施設の見学や学会等に参加する場合があります。幅広い学習を通じて、各自が4年次での卒業論文のテーマを確定していく。感染症流行の状況によりイーラーニングを利用する場合があります。	

科目名	障害者福祉論		
科目名(英語)	Welfare for Persons with Disabilities		
担当教員	寺島 正博		
科目区分	人間社会学部 社会福祉学科、社会福祉士国家試験受験資格、精神保健福祉士国家試験受験資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

激しく移り変わる障害者福祉の制度や政策、さらには障害者の置かれている実情について講義を行う。また、本講義は国家試験の「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」に位置する科目であるため、それに対応した過去問題の分析と検討を行う。

実践現場ではソーシャルワーカーの多面的な視点が必要とされていることから、毎回「福祉新聞」を用いて障害者福祉問題のみならず老人・貧困等と、さまざまな課題を取り上げ共に考えていく。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

授業内容を理解する上、新聞等で取り上げられている障害者に関する記事を注意深く読むことが望ましい。

関連資格

社会福祉士国家試験受験資格

精神保健福祉士国家試験受験資格

テキスト

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 8 障害者福祉』中央法規、2021年、2,750円(税込)。

参考図書・教材等

適宜、資料を配布する。

実務経験を生かした授業

障害福祉サービスの勤務経験を有する教員が、実践現場を踏まえて障害福祉の現状等について説明する。

学習相談・助言体制

- ・授業終了後に質疑応答を随時受け付ける。
- ・オフィスアワーの時間帯に相談や質問を受け付ける。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	障害者の生活実態、障害者福祉制度の発展過程、障害者福祉に関連する法令の概要、相談支援事業所の役割と実際、障害者福祉の組織、機関の役割、障害者福祉の専門職の役割と実際等の知識について活用することができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

障害者の生活実態、障害者福祉の沿革、障害者福祉の関連法令、障害者福祉に関する機関や専門職等の内容を正確に理解し、各自が持つ障害観について説明することができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

障害者の生活実態、障害者福祉の沿革、障害者福祉の関連法令、障害者福祉に関する機関や専門職等の内容について説明することができる。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

障害者の生活実態、障害者福祉の沿革、障害者福祉の関連法令、障害者福祉に関する機関や専門職等の内容を正確に理解し、各自が持つ障害観を深めることができ、共生社会に向けて説明することができる。

A:80～89 履修目標を達成している。

障害者の生活実態、障害者福祉の沿革、障害者福祉の関連法令、障害者福祉に関する機関や専門職等の内容を正確に理解し、各自が持つ障害観について説明することができる。

B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

障害者の生活実態、障害者福祉の沿革、障害者福祉の関連法令、障害者福祉に関する機関や専門職等の内容を理解し、ある程度各自が持つ障害観について説明することができる。

C:60～69 到達目標を達成している。

障害者の生活実態、障害者福祉の沿革、障害者福祉の関連法令、障害者福祉に関する機関や専門職等の内容について説明することができる。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

障害者の生活実態、障害者福祉の沿革、障害者福祉の関連法令、障害者福祉に関する機関や専門職等の内容について説明することができない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	90	知識・技能(DP1)
発表	10	知識・技能(DP1)
備考	定期試験の得点が60%以上を単位認定とする。	

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	オリエンテーション
	授業方法/進め方	講義・質疑応答
2	授業内容(担当教員)	障害者の定義と特性
	授業方法/進め方	講義・質疑応答
	事前・事後学習	教科書第1章を熟読。 障害特性を理解する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習/問題解決学習
3	授業内容(担当教員)	障害者の定義と特性
	授業方法/進め方	講義・質疑応答
	事前・事後学習	教科書第1章を熟読。 ICFを理解する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習/問題解決学習
4	授業内容(担当教員)	障害者福祉の理念
	授業方法/進め方	講義・質疑応答
	事前・事後学習	教科書第2章を熟読。 障害観の変遷を理解する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習/問題解決学習
5	授業内容(担当教員)	障害者福祉の歴史
	授業方法/進め方	講義・質疑応答
	事前・事後学習	教科書第3章を熟読。 障害者処遇の変遷を理解する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習/問題解決学習
6	授業内容(担当教員)	障害者福祉の歴史
	授業方法/進め方	講義・質疑応答
	事前・事後学習	教科書第3章を熟読。 当事者運動を理解する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習/問題解決学習

7	授業内容（担当教員）	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題
	授業方法 / 進め方	講義・質疑応答
	事前・事後学習	教科書第4章を熟読。 障害者の実態を理解する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
8	授業内容（担当教員）	障害者に対する法制度
	授業方法 / 進め方	講義・質疑応答
	事前・事後学習	教科書第5章を熟読。 障害者の法体系を理解する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
9	授業内容（担当教員）	障害者に対する法制度
	授業方法 / 進め方	講義・質疑応答
	事前・事後学習	教科書第5章を熟読。 障害者総合支援法（介護給付・訓練等給付）を理解する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
10	授業内容（担当教員）	障害者に対する法制度
	授業方法 / 進め方	講義・質疑応答
	事前・事後学習	教科書第5章を熟読。 障害者総合支援法（申請から支給決定までの流れ）を理解する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
11	授業内容（担当教員）	障害者に対する法制度
	授業方法 / 進め方	講義・質疑応答
	事前・事後学習	教科書第5章を熟読。 障害者の法体系を理解する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
12	授業内容（担当教員）	障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割
	授業方法 / 進め方	講義・質疑応答
	事前・事後学習	教科書第6章を熟読。 障害者に関わる関係機関と専門職を理解する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
13	授業内容（担当教員）	障害者と家族等に対する支援の実際
	授業方法 / 進め方	講義・質疑応答
	事前・事後学習	教科書第7章を熟読。 障害者やその家族への支援について理解する。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
14	授業内容（担当教員）	過去問題を通じた復習
	授業方法 / 進め方	講義・質疑応答
	事前・事後学習	教科書の振り返り。 これまでの復習を行う。
15	授業内容（担当教員）	過去問題を通じた復習
	授業方法 / 進め方	講義・質疑応答
	事前・事後学習	教科書の振り返り。 これまでの復習を行う。

科目名	障害者・障害児心理学		
科目名（英語）	Psychology for Adults and Children with Disabilities		
担当教員	小山 憲一郎		
科目区分	人間社会学部 人間形成学科、公認心理師国家試験受験資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

近年、障害児・者に対して教育現場では特別支援教育がはじまり、福祉領域においても「発達障害者支援法」が成立し、障害児・者を取り巻く支援環境は大きく変わり始めているものの、ここ最近の事件報道に加害者として取り上げられる等のさまざまな問題を抱えている。この講義では、さまざまな『障害』の特性について学習し、さらに当事者の声を聞きながら、障害児・者とその家族の生活を主体とした支援について理解を深めていく。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

特記なし

関連資格

公認心理師

テキスト

授業内で資料を配布します。

下記の参考図書は、授業の予習復習に最適です。必須ではありませんが、任意で購入し、自学してください。

参考図書・教材等

田中新正 古賀清治 編著 新訂『障害児・障害者心理学特論』NHK 出版

実務経験を生かした授業

心理実践の実務経験のある教員が発達障害や中途障害を持つ人への心理的理解と支援の方法について講義する。

授業中の撮影

対面授業免除者がいた場合に録画。

学習相談・助言体制

授業後、e-learning上のリアクションペーパーで受け付けます。e-learning上で回答しますが、全体に共有する価値がある質問は、次回の授業内で扱うこともあります。質問者のプライバシーは守ります。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	さまざまな『障害』の特性について理解できる。障害児・者とその家族の生活を主体とした支援について学ぶ。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

さまざまな『障害』の特性について学習し、さらに当事者の声を聞きながら、障害児・者とその家族の生活を主体とした支援について理解を深める。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

各種障害の特性、心理状態等についての知識を身につける。

成績評価の基準

S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A: 80～89	履修目標を達成している。
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C:60～69 到達目標を達成している。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業内レポート・小テスト	40	知識・技能(DP1)：40
授業外レポート・宿題	60	知識・技能(DP1)：60

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	障害とは何か 障害者・障害児の心理 社会的課題-
	授業方法/進め方	講義 各回において、授業に対する質問、感想などのe-learning上でのミニレポートを課します。そこで上がった質問の中から、次回講義の際に主なものをいくつか扱って行きます。
	事前・事後学習	e-learningにて授業のハイライト、意見、質問、感想をまとめたミニレポートを提出します。
2	授業内容(担当教員)	知的障害に関する心理と支援
	授業方法/進め方	講義 各回において、授業に対する質問、感想などのe-learning上でのミニレポートを課します。そこで上がった質問の中から、次回講義の際に主なものをいくつか扱って行きます。
	事前・事後学習	e-learningにて授業のハイライト、意見、質問、感想をまとめたミニレポートを提出します。
3	授業内容(担当教員)	自閉性スペクトラム障害の心理と支援
	授業方法/進め方	講義 各回において、授業に対する質問、感想などのe-learning上でのミニレポートを課します。そこで上がった質問の中から、次回講義の際に主なものをいくつか扱って行きます。
	事前・事後学習	e-learningにて授業のハイライト、意見、質問、感想をまとめたミニレポートを提出します。
4	授業内容(担当教員)	自閉性スペクトラム障害の心理と支援
	授業方法/進め方	講義 各回において、授業に対する質問、感想などのe-learning上でのミニレポートを課します。そこで上がった質問の中から、次回講義の際に主なものをいくつか扱って行きます。
	事前・事後学習	e-learningにて授業のハイライト、意見、質問、感想をまとめたミニレポートを提出します。
5	授業内容(担当教員)	自閉性スペクトラム障害の心理と支援
	授業方法/進め方	講義 各回において、授業に対する質問、感想などのe-learning上でのミニレポートを課します。そこで上がった質問の中から、次回講義の際に主なものをいくつか扱って行きます。
	事前・事後学習	e-learningにて授業のハイライト、意見、質問、感想をまとめたミニレポートを提出します。
6	授業内容(担当教員)	ADHDの心理と支援
	授業方法/進め方	講義 各回において、授業に対する質問、感想などのe-learning上でのミニレポートを課します。そこで上がった質問の中から、次回講義の際に主なものをいくつか扱って行きます。
	事前・事後学習	e-learningにて授業のハイライト、意見、質問、感想をまとめたミニレポートを提出します。

7	授業内容（担当教員）	ADHDの心理と支援
	授業方法 / 進め方	講義 各回において、授業に対する質問、感想などのe-learning上でのミニレポートを課します。そこで上がった質問の中から、次回講義の際に主なものをいくつか扱って行きます。
	事前・事後学習	e-learningにて授業のハイライト、意見、質問、感想をまとめたミニレポートを提出します。
8	授業内容（担当教員）	学習障害に関する心理と支援
	授業方法 / 進め方	講義 各回において、授業に対する質問、感想などのe-learning上でのミニレポートを課します。そこで上がった質問の中から、次回講義の際に主なものをいくつか扱って行きます。
	事前・事後学習	e-learningにて授業のハイライト、意見、質問、感想をまとめたミニレポートを提出します。
9	授業内容（担当教員）	特別支援教育と発達障害者支援法に 関して
	授業方法 / 進め方	講義 各回において、授業に対する質問、感想などのe-learning上でのミニレポートを課します。そこで上がった質問の中から、次回講義の際に主なものをいくつか扱って行きます。
	事前・事後学習	e-learningにて授業のハイライト、意見、質問、感想をまとめたミニレポートを提出します。
10	授業内容（担当教員）	精神障害に関する心理と支援（統合失 調症・うつ病・不安症）
	授業方法 / 進め方	講義 各回において、授業に対する質問、感想などのe-learning上でのミニレポートを課します。そこで上がった質問の中から、次回講義の際に主なものをいくつか扱って行きます。
	事前・事後学習	e-learningにて授業のハイライト、意見、質問、感想をまとめたミニレポートを提出します。
11	授業内容（担当教員）	運動障害に関する心理と支援
	授業方法 / 進め方	講義 各回において、授業に対する質問、感想などのe-learning上でのミニレポートを課します。そこで上がった質問の中から、次回講義の際に主なものをいくつか扱って行きます。
	事前・事後学習	e-learningにて授業のハイライト、意見、質問、感想をまとめたミニレポートを提出します。
12	授業内容（担当教員）	中途障害・進行性疾患に関する心理と 支援
	授業方法 / 進め方	講義 各回において、授業に対する質問、感想などのe-learning上でのミニレポートを課します。そこで上がった質問の中から、次回講義の際に主なものをいくつか扱って行きます。
	事前・事後学習	e-learningにて授業のハイライト、意見、質問、感想をまとめたミニレポートを提出します。
13	授業内容（担当教員）	障害児・者の家族の心理と支援
	授業方法 / 進め方	講義 各回において、授業に対する質問、感想などのe-learning上でのミニレポートを課します。そこで上がった質問の中から、次回講義の際に主なものをいくつか扱って行きます。
	事前・事後学習	e-learningにて授業のハイライト、意見、質問、感想をまとめたミニレポートを提出します。
14	授業内容（担当教員）	早期発見・早期療育（乳幼児期の支援）
	授業方法 / 進め方	講義 各回において、授業に対する質問、感想などのe-learning上でのミニレポートを課します。そこで上がった質問の中から、次回講義の際に主なものをいくつか扱って行きます。
	事前・事後学習	e-learningにて授業のハイライト、意見、質問、感想をまとめたミニレポートを提出します。

15	授業内容（担当教員）	まとめ
	授業方法 / 進め方	講義 各回において、授業に対する質問、感想などのe-learning上でのミニレポートを課します。そこで上がった質問の中から、次回講義の際に主なものをいくつか扱って行きます。
	事前・事後学習	e-learningにて授業のハイライト、意見、質問、感想をまとめたミニレポートを提出します。

科目名	心理演習		
科目名（英語）	Seminar in Psychology		
担当教員	小山 憲一郎、吉岡 和子、岩橋 宗哉		
科目区分	人間社会学部 人間形成学科、公認心理師国家試験受験資格		
標準履修年次	3～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、次の（ア）から（オ）までに掲げる事項について、具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）を行い、かつ、事例検討で取り上げる。（ア）心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得（１）コミュニケーション（２）心理検査（３）心理面接（４）地域支援等（イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成（ウ）心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ（エ）多職種連携及び地域連携（オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等
心理コースの学生

関連資格

公認心理師国家試験受験資格、認定心理士

テキスト

なし

参考図書・教材等

臨床心理学 第16巻 第3号 特集 臨床的判断力（金剛出版）

臨床心理学 第17巻 第1号 特集 「こんなときどうする？」にこたえる 20 のヒント 心理職の仕事術（金剛出版）

その他は講義中に紹介

実務経験を生かした授業

医療機関等での心理臨床経験を生かして授業を行う。

学習相談・助言体制

基本的に、授業の最後に質問等を書く出席レポートに記入してもらい、授業中に回答していきます。

さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後やメール（yoshioka@fukuoka-pu.ac.jp）で質問時間を予約してください。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2)	様々な立場にある人々に対する心理的援助スキルの基礎を修得している。
-------	-----------------------------------

思考・判断・表現

(DP3)	関連する諸問題に対する心理的援助の適切な対応を検討できる。
-------	-------------------------------

主体性・多様性・協働性

(DP4)	関連する諸問題に対して、主体的に検討することができる。 様々な立場にある人々のニーズについて理解し、協働して支援計画を作成することができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

事例検討や役割演技を通して、DP2～4を十分に達成している。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

DP2～4について、最低限身につけている。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
--

A: 80～89	履修目標を達成している。
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60～69	到達目標を達成している。
不可: ～59	到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業への参加度	30	知識・技能(DP2)：10，思考・判断・表現(DP3)：10，主体性・多様性・協働性(DP4)：10
発表	70	知識・技能(DP2)：20，思考・判断・表現(DP3)：20，主体性・多様性・協働性(DP4)：30
備考	授業への参加度は、授業中と授業の最後にも書いてもらう出席レポート内容で評価します。	

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
第2回から第15回に課題解決学修、グループ・ディスカッション及びロールプレイを行う。

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	子ども及び大人の事例の紹介
	授業方法 / 進め方	講義
	事前・事後学習	講義全体を概観した上で、各自興味のある領域や事例を選び担当する。
	アクティブ・ラーニング	その他
2	授業内容（担当教員）	子どもの事例検討 虐待により入所施設で生活する小学生の事例
	授業方法 / 進め方	小グループに分かれ、事例の理解を深め、支援計画を作成する
	事前・事後学習	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。
	アクティブ・ラーニング	その他
3	授業内容（担当教員）	子どもの事例検討 虐待により入所施設で生活する小学生の事例
	授業方法 / 進め方	小グループに分かれ、事例の理解を深め、支援計画を作成する
	事前・事後学習	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。
	アクティブ・ラーニング	その他
4	授業内容（担当教員）	子どもの事例検討 虐待により入所施設で生活する小学生の事例
	授業方法 / 進め方	小グループに分かれ、事例の理解を深め、支援計画を作成する
	事前・事後学習	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。
	アクティブ・ラーニング	その他

5	授業内容（担当教員）	大人の事例検討 うつ病による休職を繰り返す事例
	授業方法 / 進め方	小グループに分かれ、事例の理解を深め、支援計画を作成する
	事前・事後学習	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。
	アクティブ・ラーニング	その他
6	授業内容（担当教員）	大人の事例検討 うつ病による休職を繰り返す事例
	授業方法 / 進め方	小グループに分かれ、事例の理解を深め、支援計画を作成する
	事前・事後学習	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。
	アクティブ・ラーニング	その他
7	授業内容（担当教員）	大人の事例検討 うつ病による休職を繰り返す事例
	授業方法 / 進め方	小グループに分かれ、事例の理解を深め、支援計画を作成する
	事前・事後学習	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。
	アクティブ・ラーニング	その他
8	授業内容（担当教員）	心理面接：ロールプレイ
	授業方法 / 進め方	小グループに分かれ、模擬事例を使用して、ロールプレイを行い、心理面接での基本的なかかわり方を学ぶ。
	アクティブ・ラーニング	その他
9	授業内容（担当教員）	心理面接：ロールプレイ
	授業方法 / 進め方	小グループに分かれ、模擬事例を使用して、ロールプレイを行い、心理面接での基本的なかかわり方を学ぶ。
	アクティブ・ラーニング	その他
10	授業内容（担当教員）	子どもの事例についての支援計画
	授業方法 / 進め方	グループごとに支援計画を発表し、支援計画作成のための理解を深めるためにディスカッションを行う
	事前・事後学習	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。
	アクティブ・ラーニング	その他
11	授業内容（担当教員）	大人の事例についての支援計画
	授業方法 / 進め方	グループごとに支援計画を発表し、支援計画作成のための理解を深めるためにディスカッションを行う
	事前・事後学習	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。
	アクティブ・ラーニング	その他

12	授業内容（担当教員）	心理職の実践上の課題
	授業方法 / 進め方	グループごとに発表し、コミュニケーションや心理検査、地域支援及び職業倫理を含む心理職の技能について理解を深めるためにディスカッションを行う。
	事前・事後学習	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。
	アクティブ・ラーニング	その他
13	授業内容（担当教員）	心理職の実践上の課題
	授業方法 / 進め方	グループごとに発表し、コミュニケーションや心理検査、地域支援及び職業倫理を含む心理職の技能について理解を深めるためにディスカッションを行う。
	事前・事後学習	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。
	アクティブ・ラーニング	その他
14	授業内容（担当教員）	心理職の実践上の課題
	授業方法 / 進め方	グループごとに発表し、コミュニケーションや心理検査、地域支援及び職業倫理を含む心理職の技能について理解を深めるためにディスカッションを行う。
	事前・事後学習	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。
	アクティブ・ラーニング	その他
15	授業内容（担当教員）	心理職の実践上の課題
	授業方法 / 進め方	グループごとに発表し、コミュニケーションや心理検査、地域支援及び職業倫理を含む心理職の技能について理解を深めるためにディスカッションを行う。
	事前・事後学習	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。
	アクティブ・ラーニング	その他

科目名	心理学研究法		
科目名（英語）	Psychological Research Methods		
担当教員	上野 行良、小林 亮太、麦島 剛、古賀 なな子		
科目区分	人間社会学部 人間形成学科、公認心理師国家試験受験資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

心理学の基本的な研究方法を学びます。心理学は実証を重視することによって発展してきました。多くの心理学的な知見を学ぶ際も、その実証性を確かめながら理解することが必要です。また受講されるみなさんのほとんどが卒業論文では実証的な研究を行うこととなります。心理をどのように実証的に研究するかを知り、身につけましょう。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等
なし

関連資格

公認心理師

テキスト

なし

参考図書・教材等

なし

実務経験を生かした授業

14・15回では公認心理師及び臨床心理士の資格をもち、臨床経験のある教員が面接について教授する。

授業中の撮影

対面免除申請への対応時に録画あり。

学習相談・助言体制

講義中及びメール、またはe-learning上のミニレポート内での質問を受け付けます。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	心理学の研究法を知る。
(DP2)	心理学研究を行うための基礎的なスキルを身につける。

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

心理学研究を実証的に研究する方法を知り、適切に行うことができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

心理学研究をどのように実践するかを知っている。

成績評価の基準

S:90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A:80～89	履修目標を達成している。
B:70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C:60～69	到達目標を達成している。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業内レポート・小テスト	80	知識・技能(DP1) : 40 , (DP2) : 40
授業外レポート・宿題	10	知識・技能(DP1) : 5 , (DP2) : 5
発表	3	知識・技能(DP1) : 1 , (DP2) : 2
その他	7	知識・技能(DP1) : 3 , (DP2) : 4

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	仮説検証
	授業方法/進め方	グループワークを通し実験計画を立てる。
	事前・事後学習	宿題が出る。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
2	授業内容(担当教員)	研究デザイン
	授業方法/進め方	グループワークを通し実験計画を立てる。
	事前・事後学習	宿題が出る。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
3	授業内容(担当教員)	統計的検定
	授業方法/進め方	グループワークを通し妥当な統計的検定を選ぶ訓練をする。
	事前・事後学習	宿題が出る。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
4	授業内容(担当教員)	質問紙
	授業方法/進め方	グループワークを通し質問紙を作成する。
	事前・事後学習	宿題が出る。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/レポート/グループワーク
5	授業内容(担当教員)	質問紙
	授業方法/進め方	グループワークを通し質問紙を作成する。
	事前・事後学習	宿題が出る。
6	授業内容(担当教員)	認知心理学実験
	授業方法/進め方	講義形式を中心に行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。
7	授業内容(担当教員)	認知心理学実験
	授業方法/進め方	講義形式を中心に行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。
8	授業内容(担当教員)	認知心理学実験
	授業方法/進め方	講義形式を中心に行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。
9	授業内容(担当教員)	生理と行動
	授業方法/進め方	講義形式で行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。
10	授業内容(担当教員)	生理と行動
	授業方法/進め方	講義形式で行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。

11	授業内容（担当教員）	生理と行動
	授業方法 / 進め方	講義形式で行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。
12	授業内容（担当教員）	観察
	授業方法 / 進め方	講義形式を中心に行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。
13	授業内容（担当教員）	観察
	授業方法 / 進め方	講義形式を中心に行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。
14	授業内容（担当教員）	面接
	授業方法 / 進め方	講義形式を中心に行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。
15	授業内容（担当教員）	面接
	授業方法 / 進め方	講義形式を中心に行う。
	事前・事後学習	講義内で指示を行う。

科目名	心理学的支援法		
科目名(英語)	Methods of Psychological Support		
担当教員	吉岡 和子、岩橋 宗哉		
科目区分	人間社会学部 人間形成学科、公認心理師国家試験受験資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

下記についての知識及び技能を修得する。

- ・代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界(#1～7)
- ・プライバシーへの配慮(#8,9) ・訪問による支援や地域支援の意義(#8,9)
- ・心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援(#8,9)
- ・良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法(#10～14)
- ・心の健康教育(#15)

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

なし

関連資格

公認心理師国家試験受験資格
認定心理士

テキスト

なし

参考図書・教材等

川瀬正裕・松本英夫・松本真理子「心とかかわる臨床心理-基礎・実際・方法-」ナカニシヤ 出版、2006年
杉浦京子「臨床心理学講義」朱鷺書房、2002年
川瀬正裕・松本真理子・川瀬三弥子「これからの心の援助-役に立つカウンセリングの基礎と技法-」ナカニシヤ出版、2001年
河合隼雄「カウンセリングの実際問題」誠信書房、1970年
高橋紀子・吉岡和子「心理臨床、現場入門-初心者から半歩だけ先の風景」ナカニシヤ出版、2010年
その他は講義中に紹介

実務経験を生かした授業

医療機関、心理教育相談室等での心理支援に従事した経験を生かして授業を行う。

学習相談・助言体制

基本的に、授業の最後に質問等を書く出席レポートに記入してもらい、授業中に回答していきます。
さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後やメール(yoshioka@fukuoka-pu.ac.jp)で質問時間を予約してください。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	代表的な心理療法やカウンセリング、訪問による支援や地域支援の意義、心理に関する支援を要する者の関係者への支援、心の健康教育について説明できる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

アクティブラーニングでの体験をもとに、DP1について述べるができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

DP1について述べるができる。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

A: 80～89	履修目標を達成している。
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C: 60～69	到達目標を達成している。
不可: ～59	到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業への参加度	60	知識・技能(DP1) : 60
まとめレポート	40	知識・技能(DP1) : 40
備考	授業への参加度は、授業の最後に感想や質問等を書いてもらう出席レポート内容で評価します。	

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容
第3回から第15回まで、体験学習やグループ・ワークなどを行う。

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	代表的な心理療法及びカウンセリング 1
	授業方法/進め方	資料やDVD等を通して基本的な考え方を学ぶ。心理学的支援法について体験的に学ぶ。演習内容の説明を行った後、様々なワークを行う。適宜解説を加えたり、参考資料を紹介したりしながら、理解を深めていく。
	事前・事後学習	参考文献等を読み、自分なりの理解や疑問点について考えておくこと、より理解が深まるのでそのように予習してください。以上のような予習に加えて、具体的なかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。また、疑問がある場合は適宜質問してください。
	アクティブ・ラーニング	その他
2	授業内容(担当教員)	代表的な心理療法及びカウンセリング 2
	授業方法/進め方	#2～#15 同上
	事前・事後学習	#2～#15 同上
	アクティブ・ラーニング	その他
3	授業内容(担当教員)	カウンセリングの意義を体験的に学ぶ 1 体験を表現すること : コラージュ作成を通して
	アクティブ・ラーニング	その他
4	授業内容(担当教員)	カウンセリングの意義を体験的に学ぶ 2 体験を表現すること : コラージュ作成を通して
	アクティブ・ラーニング	その他
5	授業内容(担当教員)	カウンセリングの意義を体験的に学ぶ 3 相互作用の中で表現すること : スクイグルを通して
	アクティブ・ラーニング	その他
6	授業内容(担当教員)	カウンセリングの意義を体験的に学ぶ 4 体験を味わい表現すること : フォーカシングを通して
	アクティブ・ラーニング	その他
7	授業内容(担当教員)	カウンセリングの意義を体験的に学ぶ 5 ワーク体験の共有
	アクティブ・ラーニング	その他
8	授業内容(担当教員)	心理学的支援の進め方 1
	アクティブ・ラーニング	その他

9	授業内容（担当教員）	心理学的支援の進め方 2
	アクティブ・ラーニング	その他
10	授業内容（担当教員）	心理学的支援の進め方を体験的に学ぶ 1 ラポールの確立 : 傾聴を支える技術
	アクティブ・ラーニング	その他
11	授業内容（担当教員）	心理学的支援の進め方を体験的に学ぶ 2 ラポールの確立 : 面接環境や面接者の態度の重要性
	アクティブ・ラーニング	その他
12	授業内容（担当教員）	心理学的支援の進め方を体験的に学ぶ 3 質問技法の検討
	アクティブ・ラーニング	その他
13	授業内容（担当教員）	心理学的支援の進め方を体験的に学ぶ 4 質問技法の検討
	アクティブ・ラーニング	その他
14	授業内容（担当教員）	心理学的支援の進め方を体験的に学ぶ 5 傾聴のロールプレイ
	アクティブ・ラーニング	その他
15	授業内容（担当教員）	心の健康教育：リラックス法を中心に
	アクティブ・ラーニング	その他

科目名	心理実習		
科目名（英語）	Practical Training in Psychology I		
担当教員	小嶋 秀幹、小山 憲一郎、吉岡 和子、岩橋 宗哉、池 志保、小林 亮太		
科目区分	人間社会学部 人間形成学科、公認心理師国家試験受験資格		
標準履修年次	2～4年	開講時期	通年
必修・選択	選択	単位	1単位

・科目情報

授業概要

教育分野における30時間の現場体験を通じて、公認心理師としてのマナー、倫理、法的義務および、職務と多職種連携について理解する。子どもたちへの学習支援や集団活動体験（グループワーク活動やイベント等の体験活動）などへの参加を通して心理実践・援助で必要とされる知識・援助技術の体験的学習を行う。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

原則として、1年次開講科目（別表第20）のすべてを履修していること。なお「不登校ひきこもり援助論」「子供学習支援論」を履修し、サポーター活動を行っていることは実習開始の必須条件です。

関連資格

公認心理師

テキスト

授業中に紹介及び適宜配布する。

参考図書・教材等

授業中に紹介及び適宜配布する。

実務経験を生かした授業

実習指導者と連携し、実習担当教員が心理実践に従事した経験をもとにオリエンテーション及び実習指導を行う。

授業中の撮影

対面授業免除者への対応として可能性あり。

学習相談・助言体制

実習指導者は実習時間内に質問を受ける。

実習担当教員は随時相談、質問を受ける（まずはメールで）。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2)	教育領域におけるチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、職業倫理及び法的義務を理解できる。
-------	--

主体性・多様性・協働性

(DP4)	教育領域のマナー、倫理、法的義務に従って行動できる。 教育領域における心理的援助（チームアプローチなど）のスキルの基礎を身につけている。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

DP2, 4に挙げたことについて自らの体験的関与をもとに述べるができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

DP2, 4に挙げたことについて述べるができる。

成績評価の基準

S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
-----------	---------------------------------------

A: 80～89	履修目標を達成している。
----------	--------------

B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
----------	-------------------------------

C:60～69 到達目標を達成している。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
実習日誌	30	知識・技能(DP2)：15，主体性・多様性・協働性(DP4)：15
実習総括報告書	30	知識・技能(DP2)：15，主体性・多様性・協働性(DP4)：15
発表	20	知識・技能(DP2)：10，主体性・多様性・協働性(DP4)：10
その他	20	主体性・多様性・協働性(DP4)：20
備考	その他は、実習中の態度について実習指導者との協議によって評価する。	

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

実習では主に体験学習、報告会では主にグループ・ディスカッションを行う。

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	オリエンテーション
	授業方法 / 進め方	実習の目的・意義の理解 実習先に関する事前学習 公認心理師のマナー、倫理、法的義務など、実習の注意事項の理解 公認心理師の職務及び多職種連携 日誌の書き方 施設のスケジュールの確認と各自の実習計画の策定
	事前・事後学習	実習開始までに、実習先に関する事前学習などを行う。各自実習スケジュールを組み、提出すること。
2～6	授業内容（担当教員）	不登校・ひきこもりサポートセンターにおける実習（学習支援・グループワークへの参加。実習記録の作成）
	授業方法 / 進め方	原則として、通年で10回の実習を行う。実習中は、実習担当者に指導を仰ぐが、実習5回ごとに、実習担当教員による実習指導を行う。
	事前・事後学習	一回の実習ごとに実習日誌作成
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習
7	授業内容（担当教員）	実習指導
	授業方法 / 進め方	5回分の実習に関する総括および質疑応答（小山・小嶋）1時間
	事前・事後学習	5回分の実習に関する総括および質疑応答（小山・小嶋）1時間
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
8～13	授業内容（担当教員）	不登校・ひきこもりサポートセンターにおける実習（学習支援・グループワークへの参加。実習記録の作成）
	授業方法 / 進め方	原則として、通年で10回の実習を行う。実習中は、実習担当者に指導を仰ぐが、実習5回ごとに、実習担当教員による実習指導を行う。
	事前・事後学習	一回の実習ごとに実習日誌作成
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習
14	授業内容（担当教員）	実習指導
	授業方法 / 進め方	5回分の実習に関する総括および質疑応答（小山・小嶋）1時間
	事前・事後学習	全10回分の実習指導を受け、自らの知識やスキルの不足点について後半実習に向けて学習し、レポートを作成。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

15	授業内容（担当教員）	報告会
	授業方法 / 進め方	全体でのディスカッションを踏まえ、実習全体の振り返りを行う。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク
備考	第15回に、実習日誌、実習総括報告書を提出。第7回、第14回の実習指導時には、5回分の実習についてのまとめをA4一枚にまとめて持参。	

科目名	心理実習		
科目名（英語）	Practical Training in Psychology II		
担当教員	小嶋 秀幹、小山 憲一郎、吉岡 和子、岩橋 宗哉、池 志保、小林 亮太		
科目区分	人間社会学部 人間形成学科、公認心理師国家試験受験資格		
標準履修年次	3～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	1単位

・科目情報

授業概要

福祉機関における30時間の見学実習を通じて、下記3点について学ぶ。

- 心理的支援を要する者へのチームアプローチ
- 多職種連携及び地域連携
- 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

「心理実習Ⅰ」を履修していること。「公認心理師の職責」及び「心理学的支援法」を履修していることが望ましい。

関連資格

公認心理師受験資格科目

テキスト

適宜紹介する。

参考図書・教材等

授業中に紹介及び適宜配布する。

実務経験を生かした授業

実習指導者と連携し、実習担当教員が心理実践に従事した経験をもとにオリエンテーション及び実習指導を行う。

授業中の撮影

無し。

学習相談・助言体制

実習指導者が随時質問を受ける。実習担当教員は随時相談、質問を受ける（メールでアポイントください）。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2)	福祉領域におけるチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、職業倫理及び法的義務を理解できる。
-------	--

主体性・多様性・協働性

(DP4)	福祉領域における心理的援助（チームアプローチなど）のスキルの基礎を身につけている。 福祉領域のマナー、倫理、法的義務に従って行動できる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

上記ディプロマ・ポリシーにのっとり、座学では学ぶことのできない実践の知を体験を通して理解したことを述べるができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

上記ディプロマ・ポリシーにのっとり、自らの実習体験と絡めて理解し、述べるができる。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

福祉領域におけるチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、職業倫理及び法的義務を大変よく理解できている。福祉領域のマナー、倫理、法的義務に従って大変よく行動できる。福祉領域における心理的援助（チームアプローチなど）のスキルの基礎を大変よく身につけている。

A:80～89 履修目標を達成している。

福祉領域におけるチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、職業倫理及び法的義務をよく理解できている。福祉領域のマナー、倫理、法的義務に従ってよく行動できる。福祉領域における心理的援助（チームアプローチなど）のスキルの基礎をよく身につけている。

B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

福祉領域におけるチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、職業倫理及び法的義務を問題なく理解できている。福祉領域のマナー、倫理、法的義務に従って問題なく行動できる。福祉領域における心理的援助（チームアプローチなど）のスキルの基礎を問題なく身につけている。

C:60～69 到達目標を達成している。

福祉領域におけるチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、職業倫理及び法的義務をまずまず理解できている。福祉領域のマナー、倫理、法的義務に従ってまずまず行動できる。福祉領域における心理的援助（チームアプローチなど）のスキルの基礎をまずまず身につけている。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

福祉領域におけるチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、職業倫理及び法的義務が理解できていない。福祉領域のマナー、倫理、法的義務に従って行動できない。福祉領域における心理的援助（チームアプローチなど）のスキルの基礎を身につけていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
日誌	30	知識・技能(DP2)：15，主体性・多様性・協働性(DP4)：15
統括報告書	30	知識・技能(DP2)：15，主体性・多様性・協働性(DP4)：15
発表	20	知識・技能(DP2)：10，主体性・多様性・協働性(DP4)：10
その他	20	主体性・多様性・協働性(DP4)：20
備考	その他は、実習中の態度について実習指導者との協議によって評価する。	

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容 (見学実習では主に体験学習、報告会では主にグループ・ディスカッションを行う)
--

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	見学実習 オリエンテーション
	授業方法/進め方	実習の目的・意義の理解 実習先に関する事前学習 公認心理師のマナー、倫理、法的義務など、実習の注意事項の理解 公認心理師の職務及び多職種連携 日誌の書き方 施設のスケジュールの確認と各自の実習計画の策定
	事前・事後学習	実習開始までに、実習先に関する事前学習などを行う。

2~9	授業内容（担当教員）	見学実習
	授業方法 / 進め方	<p>田川児童相談所（5月～7月頃） （実習内容） 援助方針会議への陪席。 保護課実習。セカンドステップなどの心理教育プログラムへの参加、保護 されている児童との関わり。 （時 間） ・8.5 時間（うち実習時間 7.5 時間、 日誌作成 1 時間）×2 回 ・実習指導1時間 <計 18 時間></p> <p>備考） 実習機関と調整の上、各10 名の小グループで見学実習を予定しています。 コロナ対策のため、予定より小人数グループでの見学実習になることがあります。</p>
	事前・事後学習	日誌作成
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デバート / グループ・ワーク
10	授業内容（担当教員）	見学実習 オリエンテーション
	授業方法 / 進め方	<p>実習の目的・意義の理解 実習先に関する事前学習 公認心理師のマナー、倫理、法的義務など、実習の注意事項の理解 公認心理師の職務及び多職種連携 日誌の書き方 施設のスケジュールの確認と各自の実習計画の策定</p>
	事前・事後学習	<p>実習の目的・意義の理解 実習先に関する事前学習 公認心理師のマナー、倫理、法的義務など、実習の注意事項の理解 公認心理師の職務及び多職種連携 日誌の書き方 施設のスケジュールの確認と各自の実習計画の策定</p>
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デバート / グループ・ワーク
11~14	授業内容（担当教員）	見学実習
	授業方法 / 進め方	<p>福祉施設（1 施設を選択）（夏休み期間中を予定・実習機関と調整の上） （時 間） ・5 時間（うち実習時間 4 時間、日誌 作成 1 時間） ・実習指導1時間 <計6時間></p> <p>備考） 実習機関と調整の上、各10 名の小グループで見学実習を予定しています。 コロナ対策のため、予定より小人数グループでの見学実習になることがあります。</p>
	事前・事後学習	日誌作成
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デバート / グループ・ワーク

15	授業内容（担当教員）	報告会
	授業方法 / 進め方	演習形式で行う
	事前・事後学習	統括報告書の作成
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デベート / グループワーク

科目名	心理実習		
科目名（英語）	Practical Training in Psychology III		
担当教員	小嶋 秀幹、小山 憲一郎、吉岡 和子、岩橋 宗哉、池 志保、小林 亮太		
科目区分	人間社会学部 人間形成学科、公認心理師国家試験受験資格		
標準履修年次	3年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	1単位

・科目情報

授業概要

保健医療、司法・犯罪、産業・労働分野の機関における30時間の見学実習を通じて、下記3点について学ぶ。
 心理関する支援を要する者へのチームアプローチ
 多職種連携及び地域連携
 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

「心理実習I」「心理実習II」を履修していること。

関連資格

公認心理師国家試験受験資格

テキスト

適宜紹介する。

参考図書・教材等

授業中に紹介及び適宜配布する。

実務経験を生かした授業

実習指導者と連携し、実習担当教員が心理実践に従事した経験をもとにオリエンテーション及び実習指導を行う。

学習相談・助言体制

実習指導者が随時質問を受ける。
 実習担当教員は随時相談、質問を受ける（まずはメールで）。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2) 各領域におけるチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、職業倫理及び法的義務を理解できる。

主体性・多様性・協働性

(DP4) 各領域における心理的援助（チームアプローチなど）のスキルの基礎を身につけている。
 各領域のマナー、倫理、法的義務に従って行動できる。

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

DP 2、4 について、自らの体験的関与をもとに述べるができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

DP 2、4 について述べるができる。

成績評価の基準

S: 90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

A: 80～89 履修目標を達成している。

B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C: 60～69 到達目標を達成している。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
日誌	30	知識・技能(DP2) : 15, 主体性・多様性・協働性(DP4) : 15
総括報告書	30	知識・技能(DP2) : 15, 主体性・多様性・協働性(DP4) : 15
発表	20	知識・技能(DP2) : 10, 主体性・多様性・協働性(DP4) : 10
その他	20	主体性・多様性・協働性(DP4) : 20
備考	その他は、実習中の態度について実習指導者との協議によって評価する。	

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

見学実習では主に体験学習、報告会では主にグループ・ディスカッションを行う。

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	見学実習 オリエンテーション
	授業方法/進め方	実習の目的・意義の理解 実習先に関する事前学習 公認心理師のマナー、倫理、法的義務など、実習の注意事項の理解 公認心理師の職務及び多職種連携 日誌の書き方 施設のスケジュールの確認と各自の実習計画の策定
	事前・事後学習	実習開始までに、実習先に関する事前学習などを行う。
	アクティブ・ラーニング	体験学習/調査学習
2~7	授業内容(担当教員)	見学実習
	授業方法/進め方	<産業労働> 1. 浅野社会復帰センター センター事業及び心理職の業務説明を受ける 施設内見学 プログラムへの参加 ・6.5時間(うち日誌の作成1時間)×1回 ・1回の実習につき5名まで参加 3年次 10~12月を予定(実習機関と調整) <司法犯罪> 2. 小倉少年鑑別支所 機関の役割や仕組みの説明 施設見学 ・2.5時間(うち日誌の作成)×1回 ・1回の実習につき15名まで参加 3年次 1~3月を予定(実習機関と調整)
	事前・事後学習	日誌作成
	アクティブ・ラーニング	体験学習/調査学習
8	授業内容(担当教員)	報告会
	授業方法/進め方	演習形式で行う
	事前・事後学習	総括報告書の作成
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

9	授業内容（担当教員）	見学実習 オリエンテーション
	授業方法 / 進め方	実習の目的・意義の理解 実習先に関する事前学習 公認心理師のマナー、倫理、法的義務など、実習の注意事項の理解 公認心理師の職務及び多職種連携 日誌の書き方 施設のスケジュールの確認と各自の実習計画の策定
	事前・事後学習	実習開始までに、実習先に関する事前学習などを行う。
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習
10～14	授業内容（担当教員）	見学実習
	授業方法 / 進め方	<保健医療> 施設選択 施設の見学とデイケア、グループ療法、PS ミーティング、カンファレンス等の参加。 ・5.5 時間（うち日誌の作成1 時間）×2 回 ・1 回の実習につき5 名まで参加 4年次 8～9 月を予定（実習機関と調整）
	事前・事後学習	日誌作成
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習
15	授業内容（担当教員）	報告会
	授業方法 / 進め方	演習形式で行う
	事前・事後学習	統括報告書の作成
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション / デイバート / グループワーク

科目名	心理的アセスメント		
科目名(英語)	Psychological Assessment		
担当教員	池 志保		
科目区分	人間社会学部 人間形成学科、公認心理師国家試験受験資格		
標準履修年次	3～4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

この授業では、下記4点について学ぶ。

1. 心理的アセスメントの目的及び倫理(#1)
2. 心理的アセスメントの観点及び展開(#2～15)
3. 心理的アセスメントの方法(観察、面接および心理検査)(#2～15)
4. 適切な記録及び報告(#2～15)

履修条件/授業内容を理解するために必要な知識・技能等

心理コースの学生であること。

関連資格

公認心理師国家試験受験資格、認定心理士

テキスト

授業の中で適宜紹介します。

参考図書・教材等

授業の中で適宜紹介します。

実務経験を生かした授業

医療機関等で心理支援に従事した経験を生かして授業を行う。

授業中の撮影

無し

学習相談・助言体制

基本的には、授業中に助言をしていきます。また、最後に質問等を書く出席レポートに記入してもらい、授業中に回答していきます。さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後や、メールを使って質問時間を予約してください。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2)	心理的アセスメントの目的及び倫理、方法について説明できる。 様々な立場にある人々に対する心理的アセスメントのスキルを修得している。
-------	--

思考・判断・表現

(DP3)	心理的アセスメントの適応について検討できる。 心理的アセスメントを用いて導かれた自分の考えを適切に表現することができる。
-------	---

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

到達目標に加えて、心理的アセスメントを用いて導かれた自分の考えを適切に表現することができ、様々な立場にある人々に対する心理的アセスメントのスキルの基礎を修得している。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

心理的アセスメントの目的及び倫理、方法について説明でき、心理的アセスメントの適応について検討できる。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

心理的アセスメントの目的及び倫理、方法について大変よく説明できる。心理的アセスメントの適応について大変よく検討できる。心理的アセスメントを用いて導かれた自分の考えを大変適切に表現することができる。様々な立場にある人々に対する心理的アセスメントのスキルを大変よく修得している。

A:80~89 履修目標を達成している。

心理的アセスメントの目的及び倫理、方法についてよく説明できる。心理的アセスメントの適応についてよく検討できる。心理的アセスメントを用いて導かれた自分の考えを適切に表現することができる。様々な立場にある人々に対する心理的アセスメントのスキルをよく修得している。

B:70~79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

心理的アセスメントの目的及び倫理、方法について問題なく説明できる。心理的アセスメントの適応について問題なく検討できる。心理的アセスメントを用いて導かれた自分の考えを問題なく適切に表現することができる。様々な立場にある人々に対する心理的アセスメントのスキルを問題なく修得している。

C:60~69 到達目標を達成している。

心理的アセスメントの目的及び倫理、方法についてまずまず説明できる。心理的アセスメントの適応についてやや検討できる。心理的アセスメントを用いて導かれた自分の考えをまずまず適切に表現することができる。様々な立場にある人々に対する心理的アセスメントのスキルをまずまず修得している。

不可:~59 到達目標を達成できていない。

心理的アセスメントの目的及び倫理、方法について説明ができない。心理的アセスメントの適応についてやや検討できない。心理的アセスメントを用いて導かれた自分の考えをまずまず適切に表現することができない。様々な立場にある人々に対する心理的アセスメントのスキルが修得できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業内レポート・小テスト	30	知識・技能(DP2)：10，思考・判断・表現(DP3)：20
授業外レポート・宿題	70	思考・判断・表現(DP3)：70

・授業計画、アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

第3、4回、6~14回で、心理アセスメントの実習やグループワークを行う。

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	心理的アセスメントの基本的視点・観察によるアセスメント
	授業方法/進め方	講義(資料配布)
	事前・事後学習	事前： 参考文献を調べ、読んでおく。 事後： 参考文献を調べ、体験した心理検査の分析や解釈を深める。
2	授業内容(担当教員)	面接・心理検査・医学的査定によるアセスメント
	授業方法/進め方	講義(資料配布)
	事前・事後学習	事前： 参考文献を調べ、読んでおく。 事後： 参考文献を調べ、体験した心理検査の分析や解釈を深める。
3	授業内容(担当教員)	報告書の書き方
	授業方法/進め方	講義(資料配布)
	事前・事後学習	事前： 参考文献を調べ、読んでおく。 事後： 参考文献を調べ、体験した心理検査の分析や解釈を深める。

4	授業内容（担当教員）	質問紙法 TEG
	授業方法 / 進め方	演習内容の説明を行ったあと、心理アセスメントについて体験的に学ぶ。
	事前・事後学習	事前： 参考文献を調べ、読んでおく。 事後： 参考文献を調べ、体験した心理検査の分析や解釈を深める。
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習
5	授業内容（担当教員）	質問紙法 YG
	授業方法 / 進め方	演習内容の説明を行ったあと、心理アセスメントについて体験的に学ぶ。
	事前・事後学習	事前： 参考文献を調べ、読んでおく。 事後： 参考文献を調べ、体験した心理検査の分析や解釈を深める。
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習
6	授業内容（担当教員）	発達・知能検査（総論）
	授業方法 / 進め方	講義（資料配布）
	事前・事後学習	事前： 参考文献を調べ、読んでおく。 事後： 参考文献を調べ、体験した心理検査の分析や解釈を深める。
7	授業内容（担当教員）	発達・知能検査（理論）ウェクスラー式
	授業方法 / 進め方	講義（資料配布）
	事前・事後学習	事前： 参考文献を調べ、読んでおく。 事後： 参考文献を調べ、体験した心理検査の分析や解釈を深める。
8	授業内容（担当教員）	発達・知能検査（実施・分析）ウェクスラー式
	授業方法 / 進め方	演習内容の説明を行ったあと、心理アセスメントについて体験的に学ぶ。
	事前・事後学習	事前： 参考文献を調べ、読んでおく。 事後： 参考文献を調べ、体験した心理検査の分析や解釈を深める。
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デベート / グループワーク
9	授業内容（担当教員）	発達・知能検査（実施・分析）ビネー式
	授業方法 / 進め方	演習内容の説明を行ったあと、心理アセスメントについて体験的に学ぶ。
	事前・事後学習	事前： 参考文献を調べ、読んでおく。 事後： 参考文献を調べ、体験した心理検査の分析や解釈を深める。
	アクティブ・ラーニング	体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デベート / グループワーク

10	授業内容（担当教員）	投影法（総論）
	授業方法／進め方	講義（資料配布）
	事前・事後学習	事前： 参考文献を調べ、読んでおく。 事後： 参考文献を調べ、体験した心理検査の分析や解釈を深める。
11	授業内容（担当教員）	投影法 パウムテスト（実施・分析・解釈）
	授業方法／進め方	演習内容の説明を行ったあと、心理アセスメントについて体験的に学ぶ。
	事前・事後学習	事前： 参考文献を調べ、読んでおく。 事後： 参考文献を調べ、体験した心理検査の分析や解釈を深める。
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習
12	授業内容（担当教員）	投影法（実施・分析・解釈）KFD
	授業方法／進め方	演習内容の説明を行ったあと、心理アセスメントについて体験的に学ぶ。
	事前・事後学習	事前： 参考文献を調べ、読んでおく。 事後： 参考文献を調べ、体験した心理検査の分析や解釈を深める。
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習
13	授業内容（担当教員）	投映法（理論）家族のアセスメント
	授業方法／進め方	講義（資料配布）
	事前・事後学習	事前： 参考文献を調べ、読んでおく。 事後： 参考文献を調べ、体験した心理検査の分析や解釈を深める。
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習
14	授業内容（担当教員）	作業法（実施）内田クレペリン精神検査
	授業方法／進め方	演習内容の説明を行ったあと、心理アセスメントについて体験的に学ぶ。
	事前・事後学習	事前： 参考文献を調べ、読んでおく。 事後： 参考文献を調べ、体験した心理検査の分析や解釈を深める。
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習
15	授業内容（担当教員）	作業法（分析・解釈）内田クレペリン精神検査
	授業方法／進め方	演習内容の説明を行ったあと、心理アセスメントについて体験的に学ぶ。
	アクティブ・ラーニング	体験学習／調査学習

科目名	教職実践演習（養護教諭）		
科目名（英語）	Practical Training for Teaching as a School Nurse		
担当教員	原田 直樹、松浦 賢長、梶原 由紀子		
科目区分	看護学部 看護学科、養護教諭一種免許		
標準履修年次	4年	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

養護教諭の専門性に基づいた養護活動の実践について学ぶことを目標に演習を行う。保健室経営、保健管理、保健教育、健康相談、組織活動等の視点から養護教諭として必要な知識と技術を学び、同時にそれらの基盤となる価値観を醸成することを目的とする。さらに地域社会における養護教諭の職務と期待されている役割等についても学び、広い視野で子どもを取り巻く今日的な課題を考え、演習を通し、これらの子どもたちとその家族、そして地域への援助ができるよう資質の向上を図る。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

なし

関連資格

養護教諭一種免許

テキスト

授業の中で適宜紹介する。

参考図書・教材等

『保健の実践科学シリーズ 学校看護学（最新版）』講談社

実務経験を生かした授業

梶原は担当するコマについて実務経験（学校保健室勤務）を生かした内容で構成する。

学習相談・助言体制

課題シートで受付、返却時にコメントを追加して回答する。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP2) 学校保健安全法を基盤とした健康の保持増進の根拠について述べるができる。

思考・判断・表現

(DP3) 学校における応急手当と救命処置ができる。

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

学校保健安全法を基盤とした健康の保持増進の根拠について理解し、学校における応急手当と救命処置を主体的に児童生徒・地域住民を対象にした実践ができること。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

学校保健安全法を基盤とした健康の保持増進の根拠について理解すること（試験において60%以上の得点）、学校における応急手当と救命処置ができること。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

A:80～89 履修目標を達成している。

B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C:60～69 到達目標を達成している。

不可: ~59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	50	知識・技能(DP2) : 50
その他	50	思考・判断・表現(DP3) : 50

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容		
グループディスカッション/ディベート/グループワーク		
回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	組織活動と学校内外との連携 (松浦)
	授業方法/進め方	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する(アクティブラーニング)。
	事前・事後学習	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
2	授業内容(担当教員)	社会性と対人関係能力 (原田)
	授業方法/進め方	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する(アクティブラーニング)。
	事前・事後学習	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
3	授業内容(担当教員)	これまでの学習の振り返り(履修カルテ)養護実習の振り返り-学校基本情報把握力- (梶原)
	授業方法/進め方	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する(アクティブラーニング)。
	事前・事後学習	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
4	授業内容(担当教員)	養護実習の振り返り-養護実践力-「救急処置」 (梶原)
	授業方法/進め方	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する(アクティブラーニング)。
	事前・事後学習	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

5	授業内容（担当教員）	養護実習の振り返り-養護実践力 - 「救急処置」 （梶原）
	授業方法 / 進め方	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。
	事前・事後学習	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
6	授業内容（担当教員）	養護実習の振り返り-子供の成長発達の理解 （梶原）
	授業方法 / 進め方	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。
	事前・事後学習	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
7	授業内容（担当教員）	養護実習の振り返り-養護実践力「健康診断」 （梶原）
	授業方法 / 進め方	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。
	事前・事後学習	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
8	授業内容（担当教員）	養護実習の振り返り-保健指導実践力 （梶原）
	授業方法 / 進め方	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。
	事前・事後学習	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
9	授業内容（担当教員）	日本スポーツ振興センター （松浦・原田・梶原）
	授業方法 / 進め方	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。
	事前・事後学習	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
10	授業内容（担当教員）	養護実習の振り返り-養護実践力「児童生徒の健康課題の把握」 （梶原）
	授業方法 / 進め方	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。
	事前・事後学習	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

11	授業内容（担当教員）	性に関する指導の現状と課題 （松浦）
	授業方法 / 進め方	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。
	事前・事後学習	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
12	授業内容（担当教員）	子供理解と健康相談 （原田）
	授業方法 / 進め方	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。
	事前・事後学習	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
13	授業内容（担当教員）	児童生徒の現代的課題と対応 （松浦・原田・梶原）
	授業方法 / 進め方	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。
	事前・事後学習	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
14	授業内容（担当教員）	県大OG(福岡県)による保健室経営の実践例 （松浦・原田・梶原）
	授業方法 / 進め方	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。
	事前・事後学習	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
15	授業内容（担当教員）	学校保健の課題とその対応 （松浦・原田・梶原）
	授業方法 / 進め方	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。
	事前・事後学習	〔事後学習〕については、授業中に提示する。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

科目名	公衆衛生学		
科目名(英語)	Public Health		
担当教員	原田 直樹、松浦 賢長、梶原 由紀子		
科目区分	看護学部 看護学科、看護師国家試験受験資格、養護教諭一種免許		
標準履修年次	1～4年	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位	2単位

・科目情報

授業概要

公衆衛生の歴史をふまえ、公衆衛生の概念・意義、民主制・三権分立における展開の方法を理解させ、現代的な課題に対する各種取り組みと解決方法、関連職種の協働のあり方、国際的な視野への発展等を教授する。また、地域における公衆衛生の今日的課題を演習し、その解決に向けた各種機関・資源の利活用・連携方法の実際を教授する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

民主主義の方法に関する知識と、国際関係に関する知識。

関連資格

看護師国家試験受験資格、養護教諭一種免許

テキスト

コンパクト公衆衛生学第6版(朝倉書店)

参考図書・教材等

授業の中で適宜紹介する。

実務経験を生かした授業

原田は「保健と福祉」のコマを、梶原は「学校保健」のコマをそれぞれの実務経験(精神障害者支援団体運営、学校保健室勤務)を生かした内容で構成する。さらに、「保健行政」「保健と福祉 - 児童虐待への対応」のコマについては、現在実務をされている講師による授業を行う。

授業中の撮影

無

学習相談・助言体制

レスポンスカードで受付、オフィスアワーで回答

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	公衆衛生について、その概念と現代的課題について述べるができる。
(DP2)	公衆衛生の理念に基づき、健康の考え方、疾病予防や健康増進のための保健予防活動について述べるができる。

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

公衆衛生の概念と現代的課題、健康増進のための考え方と保健活動について理解した上で、自分なりの興味有る公衆衛生分野において主体的な態度で学ぶこと、または取り組むことができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

公衆衛生の概念と現代的課題、健康増進のための考え方や保健活動について理解できる。

成績評価の基準

S: 90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A: 80～89	履修目標を達成している。
B: 70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C:60～69 到達目標を達成している。

不可:～59 到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	90	知識・技能(DP1)：45，(DP2)：45
その他(事前・事後課題)	10	知識・技能(DP1)：5，(DP2)：5

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

グループディスカッション/ディベート/グループワーク

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	公衆衛生の課題(1章) (A)近代の公衆衛生の歴史 (B)感染症から生活習慣病へ (C)生活習慣から社会経済要因へ (松浦)
	授業方法/進め方	教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式) グループワーク
	事前・事後学習	[事後課題] 教科書扉、第1章を通読してください。また、人々の健康を向上させる政策を5つ調べて、中学生向けに紹介してください。 [事前課題] 教科書第2章を通読してください。また、「人口増加」「人口減少」について、それぞれの利点と欠点を調べて箇条書きでまとめてください。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
2	授業内容(担当教員)	人口問題と出生・死亡(2章) (A)世界の人口 (B)日本の人口 (C)出生と死亡 (D)家族の状況 (松浦)
	授業方法/進め方	教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式) グループワーク
	事前・事後学習	[事後課題] 教科書第2章を通読してください。 [事前課題] 教科書第4章を通読してください。人々の健康に影響を及ぼす恐れがある「生活環境」にはどのようなものがあるかを別々の種類にて5つ挙げてください。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

3	授業内容（担当教員）	日常生活環境と健康（4章） (A)空気の組成 (B)音と振動 (C)気圧 (D)放射線・電磁波 (E)温熱 (F)季節、気象 (G)室内環境 (H)水 (I)廃棄物処理 (原田)
	授業方法 / 進め方	教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)
	事前・事後学習	[事後課題] 教科書第4章を通読してください。 [事前課題] 教科書第5章を通読してください。 環境汚染にはどのようなものがあるかを5つほど挙げて、それぞれどのような健康被害があるか簡単な説明を加えてください（各1-2行でいいです）。
4	授業内容（担当教員）	環境汚染と公害（5章） (A)有害環境と健康障害 (B)公害 (C)地域環境と最近の環境問題 (D)環境保全 (原田)
	授業方法 / 進め方	教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)
	事前・事後学習	[事後課題] 教科書第5章を通読してください。 [事前課題] 教科書第6章を通読してください。現代の日本人の食生活の課題について、要点をまとめてください（数行程度）。
5	授業内容（担当教員）	栄養と健康（6章） (A)食事と栄養 (B)食の安全 (原田)
	授業方法 / 進め方	教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)
	事前・事後学習	[事後課題] 教科書第6章を通読してください。 [事前課題] 教科書第7章を通読してください。わが国の性感染症感染者数について、感染者数が多い順に、その疾患名を5つ（1位から5位まで）を調べてください。

6	授業内容（担当教員）	感染症とその予防(ワンヘルス含)（7章） (A)感染症の成立 (B)感染症の流行 (C)感染症の予防法 (D)感染症指定医療機関 (E)感染症の予防 (F)院内感染 (G)主な感染症の推移と現状 (H)その他の感染症 (I)生物テロ (梶原)
	授業方法 / 進め方	教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)
	事前・事後学習	【事後課題】教科書第7章を通読してください。 【事前課題】教科書第10章を通読してください。
7	授業内容（担当教員）	母子保健（10章） (A)母子保健の統計 (B)21世紀の母子保健 (C)母子保健法に基づく施策 (D)その他の母子保健・医療・福祉施策 (原田)
	授業方法 / 進め方	教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)
	事前・事後学習	[事後課題] 教科書第10章を通読してください。 [事前課題] 教科書第8章を通読してください。
8	授業内容（担当教員）	社会経済的要因と健康（8章） (A)健康の社会的決定要因 (B)貧困と格差 (C)人のつながりと健康 (D)ヘルスリテラシー (松浦)
	授業方法 / 進め方	教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式) グループワーク
	事前・事後学習	[事後課題] 教科書第8章を通読してください。 [事前課題] 教科書第18章を通読してください。 わが国の法令で定められている障害者の障害種別について挙げてく ださい。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

9	授業内容（担当教員）	保健と福祉 - 障害者福祉への対応（18章） (A)福祉の概念とその変遷 (B)障害者の生活支援 (原田)
	授業方法 / 進め方	教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)
	事前・事後学習	[事後課題] 教科書第18章を通読してください。 [事前課題] 教科書第11章を通読してください。学校において児童生徒の健康の保持増進を図るために取り組まれていることについてまとめてください（数行程度）。
10	授業内容（担当教員）	学校保健（11章） (A)学校保健の意義と歴史 (B)行政制度、組織と運営 (C)学校保健管理 (D)保健教育 (E)学校安全 (梶原)
	授業方法 / 進め方	教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)
	事前・事後学習	[事後課題] 教科書第11章を通読してください。 [事前課題] 教科書第14章を通読してください。 わが国の生活習慣病の患者数に関して、患者数が多い順にその疾患名を5つ挙げてください。（ヒント：厚生労働省「平成29年度患者調査」の「主な傷病の総患者数」）
11	授業内容（担当教員）	成人保健・生活習慣病（14章） (A)健康日本21 (B)わが国の死因の概要 (C)成人期の健康課題と保健活動 (D)特定健康診査・特定保健指導 (原田)
	授業方法 / 進め方	教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)
	事前・事後学習	[事後課題] 教科書第14章を通読してください。 【事前課題】教科書第20章を通読してください。国際保健に関わる専門機関についてまとめてください。

12	授業内容（担当教員）	国際保健(ワンヘルス含)（20章） (A)国際保健協力の動向 (B)国連の保健医療に関する専門機関 (C)わが国の国際保健協力 (松浦)
	授業方法 / 進め方	教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式) グループワーク
	事前・事後学習	【事後課題】 教科書第20章を通読してください。 【事前課題】教科書第17章を通読してください。地域保健行政に関わる主な専門職についてまとめてください(数行程度)。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
13	授業内容（担当教員）	保健行政（17章） (B)地域保健法と保健行政の仕組み (D)現代社会が抱える健康課題に対する地域保健行政の役割 (E)健康危機管理における地域保健行政の役割 (松浦・原田・梶原)
	授業方法 / 進め方	保健行政の実例を中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）
	事前・事後学習	【事後課題】教科書第17章を通読してください。 【事前課題】教科書第18章を通読してください。虐待の定義についてまとめてください。
14	授業内容（担当教員）	保健と福祉 - 児童虐待への対応（18章） (C)児童虐待とその対応 (松浦・原田・梶原)
	授業方法 / 進め方	虐待対応の実例を中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）
	事前・事後学習	【事後課題】 教科書第18章を通読してください。 【事前課題】教科書第16章を通読してください。災害による健康問題についてまとめてください(数行程度)。
15	授業内容（担当教員）	災害と健康(ワンヘルス含)（16章） (A)災害の定義と分類 (B)災害時の主な法律 (C)災害時の医療機関と組織 (D)災害時の活動 (E)災害サイクル (梶原)
	授業方法 / 進め方	教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)
	事前・事後学習	【事後課題】 教科書第16章を通読してください。 最後の授業回ですので、事前課題はありません。

科目名	災害看護学		
科目名（英語）	Disaster Nursing Theory		
担当教員	増満 誠		
科目区分	看護学部 看護学科、ケアリング・ナーシング・プログラム、看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	2年	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位	1単位

・科目情報

授業概要

災害看護の基礎知識として、災害サイクルに応じた活動現場別の看護、被災者特性に応じた看護展開、災害とところのケア、災害看護活動の課題、具体的な発災直後から回復過程、さらには防災における看護展開の概要について学ぶ。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

キャリア像確立講義を受講していることが望ましい。

関連資格

看護師国家試験受験資格

テキスト

各回の担当教員から別途指示あり。

参考図書・教材等

各担当教員等から適宜提示あり。

実務経験を生かした授業

各担当教員の専門領域について実務経験をもとに災害看護学に必要な知識を教授します。

学習相談・助言体制

質問は学内教員担当の時間は各教員まで。他大学の教員やVODのシステム上の質問や相談はメール（masumitsu@fukuoka-pu.ac.jp）にて受け付ける。なお、オフィスアワーでの対応も行う。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	<ul style="list-style-type: none"> ・災害看護の基礎知識と看護職の役割について理解する。 ・急激な健康破綻をきたした患者（人）を理解する。
(DP2)	<ol style="list-style-type: none"> 1) トリアージの基本的知識と段階に応じた看護技術について説明できる。 2) 災害によるところへの影響について説明できる。 3) ライフステージにおける対象による災害時の看護について説明できる。 4) 災害において急激な健康破綻をきたした患者（人）を理解し、回復に向けた看護について説明できる。 5) 様々な場において回復に向けた看護の提供方法について説明できる。

思考・判断・表現

(DP3)	・災害や防災における看護の専門性について考えることができる。
-------	--------------------------------

主体性・多様性・協働性

(DP4)	・災害時におけるボランティアの在り方や実際について考えることができる。
-------	-------------------------------------

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

ライフサイクル（母子～高齢者）各段階の課題解決において、被災者の家族単位の看護の必要性を理解し、支援を行う多職種のなかで看護の役割について理解し、社会の中で直面する課題を客観的視点から分析することができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

災害の様々なサイクルのなかで、支援が提供できるよう基本的な知識をもとにした展開方法を学び、看護職に求められる個別・集団・地域全体に対する支援について考察することができる。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
社会が直面している災害についての課題を客観的・多角的視点から分析し、被害を受けた対象となる患者の理解と同時に、被害を受けた後に暮らし続ける患者とその家族、そして地域社会に対する方略を提案できる。さらに、対象となる家族、特に子ども達の発達をふまえた家族単位の支援について考察することができる。
A:80～89 履修目標を達成している。
ライフサイクル(母子～高齢者)各段階の課題解決において、被災者の家族単位の看護の必要性を理解し、支援を行う多職種のなかで看護の役割について理解し、社会の中で直面する課題を客観的視点から分析することができる。
B:70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
災害の様々なサイクルのなかでかかわる患者とその家族に対し、基本的な知識を元にした支援の重要性を理解しその被災者本人を含めた地域住民がその提案される看護により課題解決につながることを理解する。
C:60～69 到達目標を達成している。
災害の様々なサイクルのなかで、支援が提供できるよう基本的な知識をもとにした展開方法を学び、看護職に求められる個別・集団・地域全体に対する支援について考察することができる。
不可:～59 到達目標を達成できていない。
災害の様々なサイクルのなかで、支援が提供できるよう基本的な知識をもとにした展開方法を学び、看護職に求められる個別・集団・地域全体に対する支援について考察することが十分にできていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業内レポート・小テスト	40	知識・技能(DP1)：20，(DP2)：20
授業外レポート・宿題	60	知識・技能(DP1)：10，(DP2)：30，思考・判断・表現(DP3)：10，主体性・多様性・協働性(DP4)：10

・授業計画、アクティブ・ラーニング

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	1)災害及び災害看護の基礎的知識(増満誠) 2)災害サイクルとは(増満誠) 3)トリアージとフィジカルアセスメント(国際医療福祉大学 南嶋里佳)
	授業方法/進め方	VODにて視聴、 1)災害の定義、自然災害の動向、災害の分類、災害による被害の特徴 2)災害サイクル(フェーズ0～5)、被災者特有の健康被害 3)トリアージについて一部演習や実際のトリアージ・タグを提示しSTART法の理解を深めていく。
	事前・事後学習	1～2)事前学習：日本における災害に関する記事を読んでおく。 1～2)事後学習：災害のサイクルにおける支援に関する文献を読む。 3)事前学習：トリアージのSTART法やトリアージ・タグのそれぞれの色の意味について事前学習を行い、VODを視聴すること。

2	授業内容（担当教員）	1)災害におけるこころのケアとPTSD、看護職の2次障害（福岡女学院看護大学 酒井康江） 2)災害と家族（四戸智昭） 3)災害時対応者のメンタルヘルス（聖マリア学院大学 秦野環）
	授業方法 / 進め方	VODにて視聴、 1)災害発生時のストレスからPTSD(心的外傷後ストレス障害)など、こころの状態とそのケアについて看護職の2次障害も含めて理解を深めていく。 2)東日本大震災による津波被害などの災害による家族への影響について嗜癪行動学の視点から解説する。 3)災害時対応者のメンタルヘルス（惨事ストレス）について理解を深めていく。
	事前・事後学習	1)事前学習：災害によるストレスについて時間経過とともにどのようなストレスがあるのか事前学習を行い、VODを視聴すること。 2)事前学習：PTSD（心的外傷後ストレス障害）について、またその影響によるアルコール依存症等の被災者の精神的影響について、精神看護学等関連図書について確認すること。 事後学習：VODで解説したキーワードについて確認し、学習ノートを作成すること。 3)事前学習：惨事ストレスについて事前学習したうえでVODを視聴すること。
3	授業内容（担当教員）	1)子どもや慢性疾患を抱える子ども、障がい児の災害看護（福岡大学 松本祐佳里） 2)妊産褥婦の災害看護（石田智恵美） 3)精神障がい者の災害看護（産業医科大学 児玉豊彦）
	授業方法 / 進め方	VODにて視聴、 1)災害期における子どもと家族へのケアや特別なケアが必要な子どもの防災対策について理解を深めていく。 2)妊産婦の生理的特徴を確認し、その特徴を踏まえた災害下での緊急時の対応について学習する。 3)精神障がい者（特に入院中）に対する災害看護について理解を深めていく。
	事前・事後学習	1)事前学習：災害時に特別なケアが必要な子どもにはどのような疾患があるか事前額須湯をしたうえでVODを視聴すること。 2)事前学習： a.妊産婦の生理的变化と成人女性との違いについて整理しておく。 b.妊婦健康診査の目的と項目について確認しておく。 事後学習：妊産婦の生理的特徴を考慮した災害時の看護について整理する。 3)事前学習：精神科に入院している方々の入院形態について事前学習（復習）したうえでVODを視聴すること。

4	授業内容（担当教員）	1)医療施設における災害看護（国際医療福祉大学 南嶋里佳） 2)高齢者や高齢者施設における災害看護（吉田恭子） 3)避難所生活・仮設住宅における災害看護（福岡女学院看護大学 酒井康江）
	授業方法 / 進め方	VODにて視聴、 1)看護職の多くが勤務する医療施設（特に病院）における災害看護について理解を深めていく。 2)看護職員が少ない高齢者施設における防災の視点と災害看護についての理解を深める。 3)避難所生活や仮設住宅での生活者への災害看護について理解を深めていく。
	事前・事後学習	1)事前学習：災害医療対応の原則であるCSCATTTについて事前学習したうえでVODを視聴すること。 2)事前学習：介護保険法に基づく高齢者施設、他法に基づく高齢者施設における職員の人員配置基準を確認しておく。 事後学習：高齢者の特徴を考慮した災害時の看護についてまとめる。 3)事前学習：災害における特に避難所や仮設住宅に関する法律を事前学習したうえでVODを視聴すること。
5-前	授業内容（担当教員）	1)放射線の基礎知識と災害対策（産業医科大学 岡崎龍史） 2)化学物質の基礎知識と災害対策（産業医科大学 上野晋）
	授業方法 / 進め方	VODにて視聴、 1)放射線の基礎知識について理解を深める。さらに、放射線災害における安全管理について理解を深める。 2)化学物質の基礎知識について理解を深める。さらに化学物質災害時の応急処置などについて理解を深める。 なお、本VODは研修を撮影したものを編集したものである。
	事前・事後学習	1)事前学習：東日本大震災時の放射線災害について、インターネット・新聞記事等で基礎知識を得たうえでVODを視聴すること。 2)事前学習：化学剤の種類や特徴などについて、事前学習したうえでVODを視聴すること。
5-後	授業内容（担当教員）	3)バイオテロに用いられる病原体の基礎知識と災害対策（産業医科大学 鈴木克典） 4)災害における熱中症対策（産業医科大学 堀江正知）
	授業方法 / 進め方	VODにて視聴、 3)バイオテロに用いられる病原体の基礎知識について理解を深める。さらに、感染症危機管理の重要性と応急処置などについて理解を深める。 4)体温の恒常性・体液の恒常性・熱中症の病態・熱中症の予防対策についての理解を深める。 なお本VODは研修を撮影したものを編集したものである。
	事前・事後学習	3)事前学習：バイオテロに用いられる病原体などについて、事前学習したうえでVODを視聴すること。 4)事前学習：熱中症の発生機序と予防対策について、事前学習したうえでVODを視聴すること。

6-前	授業内容（担当教員）	1)防災における看護職の役割（政時和美） 2)回復・復興における看護職の役割（福岡県北筑後保健福祉環境事務所保健師 石井靖子）
	授業方法 / 進め方	VODにて視聴、 1)防災における看護職の役割について以下の内容で説明する。 ・危機管理と病院防災の重要性 ・災害看護教育について ・防災と患者教育について 2)回復復興期においては住民の生活基盤が整いつつある中で、県の保健師として遺族訪問や住民アニバーサリーなどといったこころのケアや支援の実際についてお話しする。
	事前・事後学習	1)事前学習：災害の備えに何が必要かを調べてVODを視聴すること。 事後学習：看護職が行う病院の防災や患者教育に必要な防災について整理する。 2)事前学習：県の保健師と市町村の保健師の役割の違いについて事前学習を行うこと。
6-後	授業内容（担当教員）	3)看護学生とボランティア（聖マリア学院大学4年次生2名）
	授業方法 / 進め方	VODにて視聴、看護学生が行った傾聴ボランティア活動の実際について体験と学びについて理解を深めていく。
	事前・事後学習	事前学習：傾聴やボランティアの定義を事前学習（復習）したうえでVODを視聴すること。
7	授業内容（担当教員）	1)災害と保健所の機能、その実際（福岡県北筑後保健福祉環境事務所 所長 宮崎親） 2)災害時における歯科治療・口腔保健・身元確認（九州歯科大学 中富満城）
	授業方法 / 進め方	VODにて視聴、 1)2017年の九州北部豪雨災害における保健所の機能と実際について理解を深めていく。なお本VODは授業の一部を撮影したものを編集したものである。 2)災害時における口腔保健や歯科治療、また身元確認としての歯科の役割について理解を深めていく。
	事前・事後学習	1)事前学習：九州北部豪雨災害の概要を事前学習したうえでVODを視聴すること。 2)事前学習：断水した際にどのような方法で口腔の清潔が保てるのか事前学習したうえでVODを視聴すること。

8-前	授業内容（担当教員）	1)基幹災害拠点病院看護部について（兵庫県災害医療センター看護部長 足立久美子） 2)大規模災害派遣の実際 熊本地震を振り返る D-MAT活動と看護師の役割（兵庫県災害医療センターICU看護師 下原亜沙美）
	授業方法 / 進め方	VODにて視聴、 1)1995年の阪神淡路大震災の教訓を機に自治体初の基幹災害拠点病院、兵庫県災害医療センター病院の活動と看護部の役割を理解する。 2)2016年の熊本地震災害後のD-MAT活動事例からD-MAT活動での看護師の役割を理解する。
	事前・事後学習	1)事前学習：阪神淡路大震災とはどのような災害であったか、また基幹災害拠点病院とはどのような機能を持った病院かを事前学習したうえで視聴する。 事後学習：HEMCのYouTube公式動画「兵庫県災害医療センターHEMC」を視聴し、ドクターカー、D-MATカー、ドクターヘリなどのプレメディカルについて、ER、ハイブリッドERによる初療室医療、ICU、HCUよりなる病棟医療、研修や訓練の様子について理解を深める。 2)事前学習：D-MAT（災害派遣医療チーム HEMCはD-MAT隊員養成研修の西日本会場）について概要と隊員資格や研修についてDMAT事務局ホームページを利用して基礎知識を得ておく。 事後学習：実際の被災地でのD-MAT看護師の活動内容について、講義を基に書き出しておく。
8-後	授業内容（担当教員）	3)大規模災害派遣の実際 国際緊急援助隊医療チームの活動における看護師の役割（兵庫県災害医療センター ICU看護師 中井知代） 4)災害看護活動の実際：災害サイクルについてとそれぞれの段階でのセンターの活動（兵庫県災害医療センター 看護師長 津田雅美）
	授業方法 / 進め方	VODにて視聴、 3)ハイチ共和国での地震災害に対する国際緊急援助隊医療チームの活動を通じて国際災害看護の現場での看護師の役割について理解を深める。 4)災害サイクルとそれを構成する4つのフェーズ、それぞれのフェーズに応じた看護の在り方（災害看護サイクル）について基幹災害拠点病院（センター）による後方支援の様子も交えながら理解する。
	事前・事後学習	3)事前学習：国際緊急援助隊（JDR）について、概要と参加応募資格、活動内容などについて、派遣元のJICAのホームページなどで調べておく。 事後学習：海外での災害看護の展開において、看護職ならではの役割、活動内容について講義を基に書き出しておく。 4)事前学習：災害サイクルとは何か、サイクルのそれぞれのフェーズではどのような活動が行われるかを調べておく。 事後学習：「災害急性期」の避難所、「災害静穏期」に看護学生として立ち会う時に何が出来るかを講義を基に考え書き出しておく。

科目名	在宅看護学実習		
科目名（英語）	Practicum in Home Care Nursing		
担当教員	波止 千恵、手島 聖子、増満 誠、猪狩 崇、平塚 淳子、吉田 恭子		
科目区分	看護学部 看護学科、看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	3年	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位	2単位

・科目情報

授業概要

在宅で生活する療養者及び家族の健康課題をホリスティックにとらえ、看護過程を展開しながら、在宅療養における在宅看護の機能・役割及びその特性を理解する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

人体の構造と機能、病態生理、薬理、基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、在宅看護学概論、在宅看護学、在宅看護学演習

関連資格

看護師国家試験受験資格

テキスト

- ・ 臺 有桂編集 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版
- ・ 臺 有桂編集 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論 地域療養を支える技術 メディカ出版

参考図書・教材等

地域他科目で利用したテキストや参考図書

実務経験を生かした授業

看護師としての実務経験を有する教員が担当する。

授業中の撮影

有り

学習相談・助言体制

実習中に受け付ける。もしくはメール等で回答する。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	在宅看護の対象者のニーズや生活の特徴を理解している。 在宅看護の対象者の療養生活上の課題を理解している。 在宅看護の対象者の療養生活上の課題に対する看護計画が立案することができる。
(DP2)	在宅看護の対象者に適切な技術を提案することができる。 助言のもと、計画したケアを安全に実施することができる。 在宅看護の対象者への専門的な技術を提案することができる。

思考・判断・表現

(DP3)	実施したケアを的確に表現することができる。 実施したケアを既習学習を用いて分析することができる。 訪問事例への看護技術について、療養生活上の課題とともに分析することができる。 訪問事例への看護場面から学んだ在宅看護における自己の学習課題を説明することができる。
-------	---

主体性・多様性・協働性

(DP4)	訪問事例と積極的にかかわることができる。 在宅看護の対象者と意思の疎通を図ることができる。 保健医療福祉サービスの一員として、多職種との連携協働の必要性や看護の役割を説明することができる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

主体的な学修を行い、教員や実習指導者からのわずかな助言や指導があれば実習目標を達成すること、既習の知識と理論を使って療養者の病期の特徴やニーズおよび生活特性、家族もしくは重要他者についても十分に理解し、対象者の療養生活上の課題解決に向けた支援を行うこと、他職種連携において看護の役割を説明し、自己の課題をすることができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

常時、教員や実習指導者から助言や指導を受け実習目標を達成すること、既習の知識と理論を使って療養者の病期の特徴やニーズおよび生活特性、家族もしくは重要他者についても理解し、対象者の療養生活上の課題解決に向けた支援を行うこと、他職種連携において看護の役割を説明することができる。

成績評価の基準

S: 90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

教員や実習指導者からのわずかな助言や指導があれば実習目標を達成すること、既習の知識と理論を使って療養者の病期の特徴やニーズおよび生活特性、家族もしくは重要他者についても十分に理解し、対象者の療養生活上の課題解決に向けた支援を行うこと、他職種連携において看護の役割を説明し、自己の課題を明らかにすることができる。

A: 80～89 履修目標を達成している。

教員や実習指導者からのわずかな助言や指導があれば実習目標を達成すること、既習の知識と理論を使って療養者の病期の特徴やニーズおよび生活特性、家族もしくは重要他者についても一部を理解し、対象者の療養生活上の課題解決に向けた支援を行うこと、他職種連携において看護の役割を説明し、自己の課題を明らかにすることができる。

B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

教員や実習指導者からの助言や指導があれば実習目標を達成すること、既習の知識と理論を使って療養者の病期の特徴やニーズおよび生活特性、家族もしくは重要他者についても一部を理解し、対象者の療養生活上の課題解決に向けた支援を行うこと、他職種連携において看護の役割を説明し、自己の課題を明らかにすることができる。

C: 60～69 到達目標を達成している。

常時、教員や実習指導者から助言や指導を受け実習目標を達成すること、既習の知識と理論を使って療養者の病期の特徴やニーズおよび生活特性、家族もしくは重要他者についても理解し、対象者の療養生活上の課題解決に向けた支援を行うこと、他職種連携において看護の役割を説明することができる。

不可: ～59 到達目標を達成できていない。

常時、教員や実習指導者から助言や指導を受けても実習目標の大半を達成することができず、既習の知識と理論を使って療養者の病期の特徴やニーズおよび生活特性、家族もしくは重要他者についても理解できず、対象者の療養生活上の課題解決に向けた支援を行うこと、他職種連携において看護の役割を説明することができない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
授業内レポート・小テスト	30	知識・技能(DP1)：5，(DP2)：5，思考・判断・表現(DP3)：10，主体性・多様性・協働性(DP4)：10
発表	20	知識・技能(DP1)：5，(DP2)：5，思考・判断・表現(DP3)：5，主体性・多様性・協働性(DP4)：5
ポートフォリオ	20	知識・技能(DP1)：5，(DP2)：5，思考・判断・表現(DP3)：10
その他	30	知識・技能(DP1)：10，(DP2)：5，思考・判断・表現(DP3)：10，主体性・多様性・協働性(DP4)：5

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

臨地実習

回	授業計画
---	------

1	授業内容（担当教員）	<p>詳細は「在宅看護学実習要項」に示す。（吉田、波止、増満、手島、猪狩、平塚）</p> <p>1.実習施設：訪問看護ステーション、医療機関が行う訪問看護 2.実習方法：上記の1施設につき学生2～4名が実習する。受け持ち事例は1例、その他に訪問事例が数例あり、毎日、看護師などに同行して、見学および看護実践を行う。担当教員は数名の学生を受け持ち指導する。</p>
	授業方法 / 進め方	<p>臨地実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎朝、行動目標および計画を発表し、助言を得る。 ・特に行動計画は実習指導者に相談する。 ・対象者へのケアは、実習指導者の指導の下、実習を行う。 ・実習記録は実習指導者と教員へ提出し、指導を受ける。 <p>学内日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの共有や面接を行う。 <p>スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日目：学内実習 ・2日目：現地オリエンテーション、同行訪問、情報収集（これ以降は同じ） 受け持ち事例以外の同行訪問を含む ・第1木・金曜日：看護の方向性の検討会 ・第2木曜日：最終カンファレンス ・第2金曜日：学内にて学びの共有を行う。
	アクティブ・ラーニング	<p>発見学習 / 問題解決学習、体験学習 / 調査学習、グループディスカッション / デイバート / グループワーク</p>

科目名	小児看護学		
科目名（英語）	Pediatric Nursing		
担当教員	田中美樹、吉川未桜、吉田麻美		
科目区分	看護学部 看護学科、看護師国家試験受験資格、養護教諭一種免許		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位	2単位

・科目情報

授業概要

1年次の「人間のライフステージと看護」で学んだ小児期の子どもの身体的・精神的成長発達および発達課題をふまえ、あらゆる発達段階の多様な状況（健康なとき、入院・通院時、障がい、在宅など）にある子どもとその家族の特徴について学ぶ。その上で、健康問題や障がいをもち、検査・処置・手術等を受ける子どもとその家族に対する『子どもの最善の利益』を基本とした看護を学び理解を深める。さらに、小児期の主要な疾患の病態・症状・診断・治療について講義を受けることで、病態・経過にそった看護を学ぶ。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

生体機能看護学で修得した解剖生理学、人間のライフステージと看護で学習した子どもの成長発達段階

テキスト

中野綾美他；ナースンググラフィカ小児看護学 小児の発達と看護 メディカ出版
 中野綾美他；ナースンググラフィカ小児看護学 小児の疾患と看護 メディカ出版

参考図書・教材等

各回の講義内で別途資料を配布する。

実務経験を生かした授業

小児病棟で看護師として実務経験を有する教員が、小児各期の成長発達および支援について教授する。

授業中の撮影

なし

学習相談・助言体制

質問等はGoogleフォームで受け付け、次回授業時に回答する。
 メールでの相談も受け付けています。
 研究室へ相談に来られる際は必ずアポイントを取ってください。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	健康問題をもつ小児について発達的特徴と関連させて説明できる。 小児期の主要な疾患の病態・経過別の看護をエビデンスに基づいて説明できる。 小児の検査・処置・手術における看護師の役割について説明できる。 小児の入院・外来通院・在宅療養時における看護師の役割について説明できる。 小児期によくみられる症状のアセスメントと必要な看護ケアについて説明できる。 小児の健康問題が家族に与える影響と支援について説明できる。
-------	---

思考・判断・表現

(DP3)	事例に示された小児期の主要な疾患の病態・症状、検査・診断、治療について、文献を活用し具体的に記述できる。
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

健康問題をもつ子どもの発達的特徴をふまえ、健康問題が子どもと家族に与える影響と支援および、小児期の主要な疾患の病態・症状・診断・治療・看護について理解することができる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

小児期の主要な疾患の病態・症状・診断・治療・看護について理解することができる。

成績評価の基準

S:90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。

健康問題をもつ子どもの発達の特徴をふまえた上で、健康問題が子どもと家族に与える影響と支援および、小児期の主要な疾患の病態・症状・診断・治療・看護について十分に理解し、自分の言葉で説明することができる。さらに、事例課題で調べた内容と講義を結びつけて、具体的に分かりやすく記述し、探究的に学習することができる（定期試験および小テスト・レポートの総合値で90%以上獲得）。

A: 80～89 履修目標を達成している。

健康問題をもつ子どもの発達の特徴をふまえた上で、健康問題が子どもと家族に与える影響と支援および、小児期の主要な疾患の病態・症状・診断・治療・看護について十分に理解することができる。さらに、事例課題で調べた内容と講義を結びつけて、具体的に記述することができる（定期試験および小テスト・レポートの総合値で80%以上獲得）。

B: 70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

小児期の主要な疾患の病態・症状・診断・治療・看護について理解することができる。さらに、事例課題で調べた内容と講義を結びつけて記述することができる（定期試験および小テスト・レポートの総合値で70%以上獲得）。

C: 60～69 到達目標を達成している。

小児期の主要な疾患の病態・症状・診断・治療・看護について最低限の内容を理解することができる。さらに、事例課題で調べた内容を記述することができる（定期試験および小テスト・レポートの総合値で60%以上獲得）。

不可: ~59 到達目標を達成できていない。

小児期の主要な疾患の病態・症状・診断・治療・看護について理解できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	60	知識・技能(DP1) : 60
授業内レポート・小テスト	30	知識・技能(DP1) : 30
授業外レポート・宿題	10	知識・技能(DP1) : 5, 思考・判断・表現(DP3) : 5
備考	再試験を実施する。	

・授業計画、アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

授業内で提示する事例（課題）について考察する。

回	授業計画	
1	授業内容（担当教員）	小児看護学とは（概念と理論）/子どものセルフケアの発達と看護
	授業方法 / 進め方	講義 動画（事例）などを用い学生が考える時間を設けながら、小児看護学の理論と概念および子どものセルフケアの発達について講義する。
	事前・事後学習	事前学習：「小児看護学」 第1章- 1, 2, 4, 5、第2章2-6, 3-6, 4-5, 5-5を読む。 事後学習：講義内容をふまえ、教科書と資料を復習し小テストを受ける。
2	授業内容（担当教員）	健康障害や入院が子どもと家族におよぼす影響
	授業方法 / 進め方	講義 子どもの発達段階をふまえ、子どもの病気の理解、子どもに及ぼす影響と支援について講義する。
	事前・事後学習	事前学習：「小児看護学」 第3章- 1を読む。 事後学習：講義内容をふまえ、教科書と資料を復習し小テストを受ける。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習

3	授業内容（担当教員）	外来における / 検査や処置を受ける子ども（発達障がいをもつ子ども含む）と家族の看護
	授業方法 / 進め方	講義 検査を受ける子どもの気持ちについて、動画を用い学生が考える時間をつくり講義する。
	事前・事後学習	事前学習：「小児看護学」 第3章-5,7を読む。 事後学習：講義内容をふまえ、教科書と資料を復習し、小テストを受ける。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
4	授業内容（担当教員）	子どもによくみられる疾患 （田中医師）
	授業方法 / 進め方	講義 IgA血管炎などについて事例や看護師国家試験問題を提示しながら講義する。
	事前・事後学習	事前学習：「小児看護学」 第4章 - 7、8、第6章 - 4、第9章 - 4、第10章 - 2、第12章 - 3、7を読む。 事後課題：講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。
5	授業内容（担当教員）	手術を受ける子どもと家族への看護 / 痛みのある子どもと家族への看護
	授業方法 / 進め方	講義 子どもの周術期の看護および痛みの特徴と対応について動画や事例を用い、学生が考える時間をつくり講義する。
	事前・事後学習	事前学習：「小児看護学」 第3章 - 6、第4章 - 5を読む。 提示した事前課題を行う。 事後学習：講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
6	授業内容（担当教員）	子どもによくみられる疾患 （田中医師）
	授業方法 / 進め方	講義 ネフローゼ症候群などについて事例や看護師国家試験問題を提示しながら講義する。
	事前・事後学習	事前学習：「小児看護学」 第3章 - 3、第4章 - 7、8、第6章 - 4、第8章 - 1、2、第9章 - 4、第10章 - 2、第12章 - 3、7を読む。 事後課題：講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。
7	授業内容（担当教員）	手術を受ける子どもと家族への看護
	授業方法 / 進め方	講義 外科的な治療が必要な子どもによくみられる疾患の特徴や周手術期の看護について、動画や事例を用いて講義する。
	事前・事後学習	事前学習：「小児看護学」 9章、10章、14章-2-3、18章-3-2を読む。 事後課題：講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習

8	授業内容（担当教員）	子どもの予防接種
	授業方法 / 進め方	講義 予防接種法に基づく予防接種の概要と予防接種で予防できる疾患について事例を提示しながら講義する。
	事前・事後学習	事前学習：「小児看護学」 第2章 p116～121、「小児看護学」第2章を読む。 「私の健康履歴」をまとめ、自分の抗体価検査結果に目を通しておく。 事例課題を行い提出する。 講義内容をふまえ、自分自身の予防接種歴、抗体値（検査結果）に興味をもち見直し確認する。 提示した事前課題を行う。 事後学習：講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
9	授業内容（担当教員）	急性期にある子どもと家族への看護
	授業方法 / 進め方	講義 急性期にある子どもの特徴をふまえ、急性期疾患、症状、治療や看護について、事例や動画を提示し、アセスメントの視点を加えながら講義する。
	事前・事後学習	事前学習：「小児看護学」 第3章-2、「小児看護学」 第6章2-4、5、第8章、第11章、第12章-1-4、第14章-1-1,4、第15章-2-1、第18章、第20章を読む。 提示した事前課題を行う。 事後学習：講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
10	授業内容（担当教員）	急性期にある子どもと家族への看護
	授業方法 / 進め方	講義 急性期にある子どもの特徴をふまえ、急性期疾患、症状、治療や看護について、事例や動画を提示し、アセスメントの視点を加えながら講義する。
	事前・事後学習	事前学習：「小児看護学」 第3章-2、「小児看護学」 第6章2-4、5、第8章、第11章、第12章-1-4、第14章-1-1,4、第15章-2-1、第18章、第20章を読む。 提示した事前課題を行う。 事後学習：講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
11	授業内容（担当教員）	急性期にある子どもと家族への看護
	授業方法 / 進め方	講義 急性期にある子どもの特徴をふまえ、急性期疾患、症状、治療や看護について、事例や動画を提示し、アセスメントの視点を加えながら講義する。
	事前・事後学習	事前学習：「小児看護学」 第3章-2、「小児看護学」 第6章2-4、5、第8章、第11章、第12章-1-4、第14章-1-1,4、第15章-2-1、第18章、第20章を読む。 提示した事前課題を行う。 事後学習：講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習

12	授業内容（担当教員）	慢性期にある子どもと家族への看護
	授業方法 / 進め方	講義 慢性期にある子どもの特徴をふまえ、急性期疾患、症状、治療や看護について、事例や動画を提示し、アセスメントの視点を加えながら講義する。
	事前・事後学習	事前学習：「小児看護学」 第3章-3、7「小児看護学」 第2章、第3章、第4章、第5章、第12章、第13章、第22章を読む。 提示した事前課題を行う。 事後学習：講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
13	授業内容（担当教員）	慢性期にある子どもと家族への看護
	授業方法 / 進め方	講義 慢性期にある子どもの特徴をふまえ、急性期疾患、症状、治療や看護について、事例や動画を提示し、アセスメントの視点を加えながら講義する。
	事前・事後学習	事前学習：「小児看護学」 第3章-3、7「小児看護学」 第2章、第3章、第4章、第5章、第12章、第13章、第22章を読む。 提示した事前課題を行う。 事後学習：講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
14	授業内容（担当教員）	慢性期にある子どもと家族への看護 / 成人への移行期にある子どもと家族への看護
	授業方法 / 進め方	講義 12、13回目の授業内容に加え、疾患をもつ子どもが成人期へ移行する際の課題や支援について、事例や動画を提示し、アセスメントの視点を加えながら講義する。
	事前・事後学習	事前学習：「小児看護学」 第3章-3、7「小児看護学」 第2章、第3章、第4章、第5章、第12章、第13章、第22章を読む。 提示した事前課題を行う。 事後学習：講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
15	授業内容（担当教員）	在宅における子どもと家族の看護
	授業方法 / 進め方	講義 小児在宅療養の意義や子どもと家族の特徴および看護について、動画や事例を用い、学生が考える時間を作りながら講義を行う。
	事前・事後学習	事前学習 教科書「小児看護学」 第3章-8、9、第4章-6、「小児看護学」第21章を読む。 事後課題：講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。
	アクティブ・ラーニング	発見学習 / 問題解決学習
備考	履修の順番および内容が変更になることがあります。	

科目名	精神看護学		
科目名（英語）	Psychiatric and Mental Health Nursing		
担当教員	村方 多鶴子、安永 薫梨、植田 愛		
科目区分	看護学部 看護学科、看護師国家試験受験資格、養護教諭一種免許		
標準履修年次	2～4年	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位	2単位

・科目情報

授業概要

個人や家族の精神の健康課題・発達段階・セルフケアレベル・生活の場に応じて、看護の対象者の希望やニーズに添って、他の専門職者と協働して看護を提供するために必要な看護の方法や態度を学ぶ。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等
なし

関連資格

看護師国家試験受験資格

テキスト

・遠藤淑美、未安民生、『新版 精神看護学』、中央法規、2020、3600円

参考図書・教材等

小谷英文、宇佐美しおり、「PASセルフケアセラピー」PAS心理教育研究所、2020

小谷英文、「精神分析的システムズ心理療法」PAS研究所、2018

野嶋佐由美監修、「実践看護技術学習支援テキスト：精神看護学」、日本看護協会出版会、2011

宇佐美しおり、鈴木啓子、Patricia Underwood、「オレムのセルフケアモデル事例を用いた看護過程の展開」第2版、ヌーヴェルヒロカワ、2011

田中美恵子、「精神看護学 学生 患者のストーリーで綴る実習展開」、医歯薬出版株式会社、2015

実務経験を生かした授業

看護師としての実務経験を生かし、授業を展開する。

学習相談・助言体制

レスポンスカードや研究室を訪ねての御相談、御意見、御質問に応じます。研究室を訪ねる場合は、事前に電話やメールでアポイントメントをとることが望ましい。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	<p>看護の対象者に看護を提供する視点や技術を説明できる。</p> <p>看護の対象者の障害の種類や状態像に応じた看護の提供方法について説明できる。</p> <p>治療やリハビリテーションを受ける対象者への看護の方法を説明できる。</p> <p>精神に障害をもつ人の地域移行を促進する看護について説明できる。</p> <p>精神に障害をもつ人の地域定着を促進する看護について説明できる。</p> <p>リスクマネジメントにおける看護師の役割と姿勢、システム改善のあり方、精神看護に特有のリスクとマネジメント方法を説明できる。</p> <p>身体疾患のために精神的な困難をもつ人のセルフケアを促進する看護について説明できる。</p> <p>自分や他者に活用できるメンタルヘルスを促進する方法を説明できる。</p> <p>質の高い看護を提供するために必要な看護師のメンタルヘルスを促進する方法を説明できる。</p>
-------	---

思考・判断・表現

(DP3)	<p>看護の対象者となる人の経験を理解し、対象者の視点から看護のあり方を考察し、表現することができる。</p> <p>精神科看護に関する文献を読み、今後の精神科看護のあり方について、考察し、表現することができる。</p>
-------	--

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

看護の対象となる人の精神の健康課題・発達段階・セルフケアレベル・生活の場に応じて、看護の対象者の希望やニーズに添って、他の専門職者と協働して看護を提供するために必要な知識（精神科看護師の役割、精神の健康課題、精神保健看護の歴史、法律、看護理論及び看護技術など）、態度を学ぶ。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

看護の対象となる人の精神の健康課題・発達段階・セルフケアレベル・生活の場に応じて、看護の対象者の希望やニーズに添って、他の専門職者と協働して看護を提供するために必要な知識（精神科看護師の役割、精神の健康課題、精神保健看護の歴史、法律、看護理論及び看護技術など）、態度について理解する。
また、自主的に図書や論文を検索して内容を理解できる。レポートでは教員が提示した参考文献に加えて、自主的に図書や論文を収集して学修し、論点に沿って、自分の生活や体験、感情、行動を振り返り、考察し、それらを他者にわかりやすく説明できる。

成績評価の基準

S:90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
A:80～89	履修目標を達成している。
B:70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C:60～69	到達目標を達成している。
不可:～59	到達目標を達成できていない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	60	知識・技能(DP1)：60
授業外レポート・宿題	40	知識・技能(DP1)：20，思考・判断・表現(DP3)：20

・授業計画、 . アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングの内容

精神科看護に関するグループディスカッション、グループワークを取り入れながら、講義を進めていく。

回	授業計画
---	------

1	授業内容（担当教員）	精神の健康 精神看護実践の構造と技術 精神看護の機能と看護師の役割 精神保健医療福祉の現状と課題
	授業方法 / 進め方	1. 「精神看護学」に関するオリエンテーションを行う。 2. 以下の内容に沿って、講義を行う。 精神の健康 精神看護実践の構造と技術 精神看護の機能と看護師の役割 精神保健医療福祉の現状と課題 3. 『自分にとっての精神の健康とはどのような状態なのか』、「精神科のイメージ」について考える。
	事前・事後学習	< 事前学習 > (60分) ・テキスト(精神看護学)p1-24を読んでくる。 ・「精神保健医療福祉の現状と課題」について、厚生労働省のホームページや文献を用いて、調べてくる。 (DP1) < 事後学習 > (100分) ・課題レポートについては、後日お知らせする。 ・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べ、レポートにまとめる。 ・レポートはe-learningに提出 (DP1,3)
2	授業内容（担当教員）	ライフサイクルと精神の健康 こころの機能と発達 危機 クライシス 精神の健康とマネジメント
	授業方法 / 進め方	1. 以下の内容に沿って、講義を行う。 こころの機能と発達 危機 クライシス 精神の健康とマネジメント 2. DVD視聴を行い、これまでのライフサイクルについて振り返らせる
	事前・事後学習	< 事前学習 > (30分) ・テキスト(精神看護学)p24-56を読んでくる。(DP1) < 事後学習 > (130分) 発達に関するDVD視聴を行い、子どもから青年期の発達に関してレポート提出 ・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べ、レポートにまとめる。 ・レポートはe-learningに提出 (DP1,3)
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

3	授業内容（担当教員）	災害時の地域における精神保健医療活動 災害後の心理的反応 被災地における精神保健医療行動 被災時の精神障害者への支援
	授業方法 / 進め方	1. 以下の内容に沿って、講義を行う。 災害後の心理的反応 被災地における精神保健医療行動 被災時の精神障害者への支援
	事前・事後学習	< 事前学習 > (30分) ・テキスト(精神看護学)p57-70を読んでくる。(DP1) < 事後学習 > (130分) 被災者の体験や被災者支援に関する論文を読み、レポート提出 ・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べ、レポートにまとめる。 ・レポートはe-learningに提出 (DP1,3)
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
4	授業内容（担当教員）	精神保健医療福祉の変遷と看護 精神の健康に関する普及啓発 患者の権利擁護 精神保健医療福祉の変遷と看護
	授業方法 / 進め方	1. 以下の内容に沿って、講義を行う。 精神の健康に関する普及啓発 患者の権利擁護 精神保健医療福祉の変遷と看護
	事前・事後学習	< 事前学習 > (30分) 1) テキスト(精神看護学) p71-96を読んでくる。(DP1) < 事後学習 > (130分) 詳細については、後日お知らせする。(DP1,3)
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
5	授業内容（担当教員）	精神疾患患者を支える法制度と看護 障害者の人権及び権利に案する法制度 障害者の日常生活および就労などの支援に関連する法制度 精神保健医療福祉に関連する法律
	授業方法 / 進め方	1. 以下の内容に沿って、講義を行う。 障害者の人権及び権利に案する法制度 障害者の日常生活および就労などの支援に関連する法制度 精神保健医療福祉に関連する法律
	事前・事後学習	< 事前学習 > (80分) ・テキスト(精神看護学) p96-112を読んでくる。 ・事前学習については適宜お知らせする。(DP1) < 事後学習 > (80分) 新聞・インターネットなどを通じて、精神保健看護に関連する法律の運用の実際や事件などに関心をもって調査する。(DP1,3)
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク

6	授業内容（担当教員）	セルフケア理論 オレム アンダーウッドモデルを活用して精神障害をもつ人のセルフケアを促進する技術
	授業方法 / 進め方	1. 以下の内容に沿って、講義を行う。 精神看護の中でなぜ、セルフケアへの援助が必要なのか オレムのセルフケア理論 オレム アンダーウッドモデル 2. グループディスカッション：自分自身のセルフケアについて
	事前・事後学習	<事前学習> (160分) ・テキスト(精神看護学) p237-240を読んでくる。 ・自分自身のセルフケアについて、査定しレポートにまとめる。
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
7	授業内容（担当教員）	精神力動理論 精神力動理論を活用して人を理解する技術
	授業方法 / 進め方	1. 以下の内容に沿って、講義を行う。 精神力動の理論を理解する目的 精神力動とは 無意識と心 心の構造と働き 自我・超自我・自己 パーソナリティの査定 精神療法 グループダイナミクス 精神力動的視点に基づく看護ケア 2. 学生が困難に直面した際、どのように乗り越えているのか、などを想起する
	事前・事後学習	<事前学習> (60分) ・テキスト(精神看護学)p177-179 を読んでくる。 ・「自我の機能」「自己の機能」について調べてくる。(DP1) <事後学習> (100分) ・課題レポートについては後日お知らせする。 ・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べ、レポートにまとめる。(DP1,3)
8	授業内容（担当教員）	脳の仕組みと精神機能 脳の構造と精神機能 神経伝達物質と精神機能、薬理作用 ストレス脆弱性仮説 脳と免疫機能 睡眠障害と概日リズム
	授業方法 / 進め方	1. 以下の内容に沿って、講義を行う。 脳の構造について振り返らせる 精神機能 神経伝達物質と精神機能、薬理作用 ストレス脆弱性仮説 脳と免疫機能 睡眠障害と概日リズム
	事前・事後学習	<事前学習> (60分) ・テキスト(精神看護学)p113-135を読んでくる。 <事後学習> (120分) ・課題レポートは後日、お知らせします。 ・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べる。(DP1,3)

9	授業内容（担当教員）	精神疾患の症状・診断・診察・検査・治療 精神障害をもつ人の抱える症状 診断分類 診察の実際 臨床検査及び心理検査
	授業方法 / 進め方	1. 以下の内容に沿って、講義を行う。 精神障害をもつ人の抱える症状 診断分類 診察の実際 臨床検査及び心理検査
	事前・事後学習	<事前学習> (60分) ・テキスト(精神看護学)p137-162を読んでくる。 <事後学習> (120分) ・課題レポートは後日、お知らせします。 ・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べる。(DP1,3)
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
10	授業内容（担当教員）	薬物療法 薬物療法の展開 抗精神病薬 抗うつ薬 気分安定薬 抗不安薬・睡眠薬・不眠症治療薬
	授業方法 / 進め方	1. 以下の内容に沿って、講義を行う。 薬物療法の展開 抗精神病薬 抗うつ薬 気分安定薬 抗不安薬・睡眠薬・不眠症治療薬
	事前・事後学習	<事前学習> (60分) ・テキスト(精神看護学)p163-191を読んでくる。 <事後学習> (120分) ・課題レポートは後日、お知らせします。 ・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べる。(DP1,3)

11	授業内容（担当教員）	精神科リハビリテーションと地域包括ケア 精神科リハビリテーション 精神科リハビリテーションと地域包括ケア
	授業方法 / 進め方	1. 以下の内容に沿って講義を行う。 1) リハビリテーションの定義 2) 障害者とは 3) 精神看護学領域における主なリハビリテーションプログラム (1) 社会生活技能訓練（SST） 演習 (2) 精神科作業療法 (3) 心理教育 (4) 住居プログラム (5) その他
	事前・事後学習	< 事前学習 > (30分) ・ テキスト（精神看護学 ） p.106～117を読んでくる。 ・ 適宜お知らせする。 (DP1) < 事後学習 > (150分) ・ 適宜お知らせする (DP1,3)
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/デバート/グループワーク
12	授業内容（担当教員）	看護師のメンタルヘルスを促進する技術 ・ ストレス緩和とコーピングを強化する技術 ・ 看護師のメンタルヘルスを促進する技術
	授業方法 / 進め方	1. 以下の内容に沿って、講義を行う。 1) ストレスとは 2) ストレスと脳の関係 3) ストレスチェックをしてみよう 4) 医療従事者の仕事の特徴 5) メンタルヘルスとは 6) 職場のメンタルヘルスの「4つ」の視点 7) ストレスマネジメント
	事前・事後学習	< 事前学習 > (60分) ・ テキスト(精神看護学)p を読んでくる。 < 事後学習 > (120分) ・ 課題レポートは後日、お知らせします。 ・ 授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べる。(DP1,3)
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/デバート/グループワーク

13	授業内容（担当教員）	精神疾患患者と共に暮らす家族への支援 家族看護エンパワメントモデルを活用して精神障害をもつ人の家族のセルフケアを促進する技術
	授業方法 / 進め方	1. 以下の内容に沿って講義を行う。 家族とは、患者と家族の関係 家族のストレス 求められる支援 家族対処と社会資源のアセスメント 社会資源・レスパイトケア 家族への心理教育 家族看護エンパワメントモデルとは 2. 事例を基に家族のストレングスと支援方法について考える
	事前・事後学習	< 事前学習 > (60分) ・テキスト(精神看護学)p216-230を読んでくる。 < 事後学習 > (120分) ・家族の体験・家族支援に関する論文を読み課題レポート ・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べる。(DP1,3)
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
14	授業内容（担当教員）	地域移行期にある成員に障害をもつ人とその家族への看護
	授業方法 / 進め方	1) 精神科医療と福祉の現状と課題（国の地域移行、地域定着に関する方針、制度、施策など） 2) 地域移行支援 3) 地域定着支援 4) 急性期にある精神に障害をもつ人の地域移行を促進する技術 5) 多職種チームによる支援急性期からの地域移行に必要な看護 6) 長期入院患者の地域生活への移行を促進する技術
	事前・事後学習	< 事前課題 > (30分) 国の地域移行、地域定着に関する厚生労働省の資料を読む。(DP1) < 事後課題 > (150分) ・課題レポートは授業当日にお知らせ。 ・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べる。 ・レポートは指定されたアドレスに授業後1週間以内に提出する。(DP1,3)
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション/ディベート/グループワーク
15	授業内容（担当教員）	地域で生活する精神に障害をもつ人の地域定着を促進する技術
	授業方法 / 進め方	1) 外部講師の自己紹介 2) 地域で生活する精神に障害を持つ人の地域定着を促進する看護について(事例を用いて) 3) 患者の地域定着を促進するために必要な入院中の看護 4) 「地域で看護を展開する楽しさ」について
	事前・事後学習	< 事前学習 > (30分) ・テキスト(精神看護学)の関連ある部分を読んでくる。(DP1) < 事後課題 > (150分) ・授業に参加して、感じたことや学んだことをレポートにまとめる。 ・レポートは指定されたアドレスに授業後1週間以内に提出する。(DP1,3)

科目名	精神保健学		
科目名(英語)	Mental Health		
担当教員	小嶋 秀幹		
科目区分	人間社会学部 社会福祉学科、看護学部 看護学科、精神保健福祉士国家試験受験資格、養護教諭一種免許		
標準履修年次	2～4年	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位	2単位

・科目情報

授業概要

保健師、養護教諭等、将来、精神保健福祉に従事する学生に必要な精神保健学の基礎知識を講義する。最近の精神保健のトピックスについても随時紹介する。

履修条件 / 授業内容を理解するために必要な知識・技能等

e-learningを利用する。

関連資格

保健師、養護教諭等

テキスト

新・精神保健士養成セミナー編集委員会「現代の精神保健の課題と支援」(へるす出版、2023年、3520円)
講義はテキストに沿って進めますが、この講義で取り扱う内容は講義の1/2程度であるため、受講者は、その点を考慮した上で必要に応じてテキストを購入して下さい。e-learningで提示する資料だけでも講義内容の概要を理解することは可能です。

参考図書・教材等

特に指定しない。

実務経験を生かした授業

精神保健の実務経験をもつ精神科医の教員が講義する。

学習相談・助言体制

質問は、レスポンスカードで受け付け、講義時間内に回答する。

・DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP

知識・技能

(DP1)	講義テーマの内容を正しく説明できる。
-------	--------------------

履修目標

授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。

ライフサイクルにおける精神保健、家庭・学校・職場の精神保健について理解し、内容を説明できる。

到達目標

授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。
履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

ライフサイクルにおける精神保健、家庭・学校・職場の精神保健について理解し、最低限の内容を説明できる。

成績評価の基準

S:90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修(自主的な学修)が認められる。
	ライフサイクルにおける精神保健、家庭・学校・職場の精神保健について理解した上で、内容を的確に説明できる。
A:80～89	履修目標を達成している。
	ライフサイクルにおける精神保健、家庭・学校・職場の精神保健について理解した上で、内容を概ね説明できる。
B:70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
	ライフサイクルにおける精神保健、家庭・学校・職場の精神保健について理解した上で、基本的な内容は説明できる。
C:60～69	到達目標を達成している。

ライフサイクルにおける精神保健、家庭・学校・職場の精神保健について理解した上で、最低限の内容は説明できる。

不可: ~59 到達目標を達成できていない。

ライフサイクルにおける精神保健、家庭・学校・職場の精神保健について理解できておらず、内容の説明ができない。

・成績評価の方法

評価指標	割合	関連するDP
定期試験	70	知識・技能(DP1)
授業外レポート・宿題	30	知識・技能(DP1)

・授業計画、 ・アクティブ・ラーニング

回	授業計画	
1	授業内容(担当教員)	第1章 現代の精神保健分野の動向と基本的考え方(1)
	授業方法/進め方	講義
	事前・事後学習	(事前学習) テキストの該当ページを読んでおく。(事後学習) レポート課題を提出する。
2	授業内容(担当教員)	第1章 現代の精神保健分野の動向と基本的考え方(2)
	授業方法/進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	(事前学習) テキストの該当ページを読んでおく。(事後学習) レポート課題を提出する。
3	授業内容(担当教員)	第2章 ライフサイクルにおける精神保健(乳児期-1)
	授業方法/進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	(事前学習) テキストの該当ページを読んでおく。(事後学習) レポート課題を提出する。
4	授業内容(担当教員)	第2章 ライフサイクルにおける精神保健(乳児期-2)
	授業方法/進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	(事前学習) テキストの該当ページを読んでおく。(事後学習) レポート課題を提出する。
5	授業内容(担当教員)	第2章 ライフサイクルにおける精神保健(児童期-1)
	授業方法/進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	(事前学習) テキストの該当ページを読んでおく。(事後学習) レポート課題を提出する。
6	授業内容(担当教員)	第2章 ライフサイクルにおける精神保健(児童期-2)
	授業方法/進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	(事前学習) テキストの該当ページを読んでおく。(事後学習) レポート課題を提出する。
7	授業内容(担当教員)	第4章 家庭に関連する精神保健の課題と支援
	授業方法/進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	(事前学習) テキストの該当ページを読んでおく。(事後学習) レポート課題を提出する。
8	授業内容(担当教員)	第2章 ライフサイクルにおける精神保健(思春期)
	授業方法/進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	(事前学習) テキストの該当ページを読んでおく。(事後学習) レポート課題を提出する。
9	授業内容(担当教員)	第2章 ライフサイクルにおける精神保健(青年期)
	授業方法/進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	(事前学習) テキストの該当ページを読んでおく。(事後学習) レポート課題を提出する。

10	授業内容（担当教員）	第5章 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	（事前学習）テキストの該当ページを読んでおく。（事後学習）レポート課題を提出する。
11	授業内容（担当教員）	第2章 ライフサイクルにおける精神保健（成人期 - 1）
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	（事前学習）テキストの該当ページを読んでおく。（事後学習）レポート課題を提出する。
12	授業内容（担当教員）	第2章 ライフサイクルにおける精神保健（成人期 - 2）
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	（事前学習）テキストの該当ページを読んでおく。（事後学習）レポート課題を提出する。
13	授業内容（担当教員）	第6章 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ（1）
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	（事前学習）テキストの該当ページを読んでおく。（事後学習）レポート課題を提出する。
14	授業内容（担当教員）	第6章 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ（2）
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	（事前学習）テキストの該当ページを読んでおく。（事後学習）レポート課題を提出する。
15	授業内容（担当教員）	第2章 ライフサイクルにおける精神保健（老年期）
	授業方法 / 進め方	講義、質疑応答
	事前・事後学習	（事前学習）テキストの該当ページを読んでおく。（事後学習）レポート課題を提出する。